

二級河川三津大川水系河川整備計画に関する 住民アンケート結果と河川整備計画への反映

広 島 県

目 次

	頁
1. アンケート調査概要	1
2. アンケート調査票	3
3. アンケート調査結果(単純集計)	5
4. アンケート調査結果(クロス集計)	14
5. アンケート調査結果による河川整備計画への反映	23

1. アンケート調査概要

(1) 目的

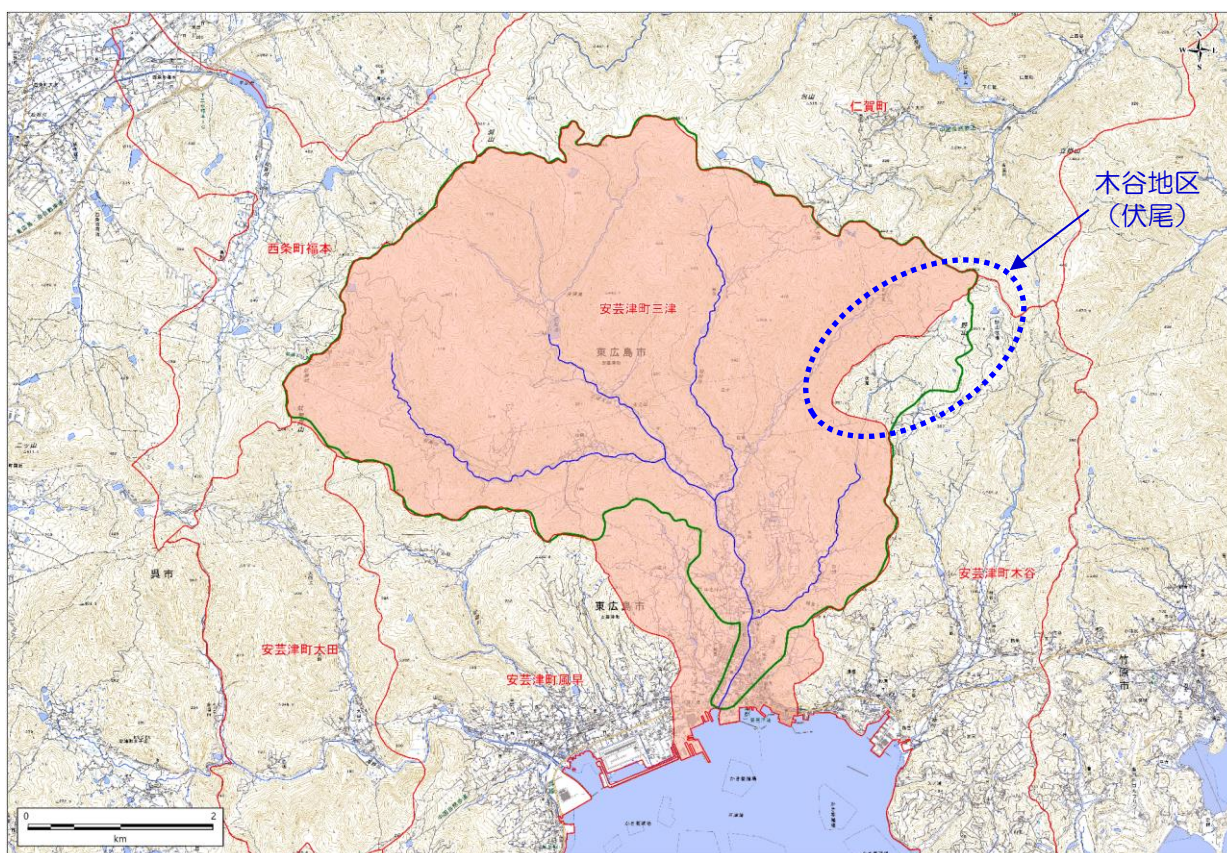
本アンケートは、流域内及び氾濫原に居住する住民意見を聴取することを目的としている。聴取した意見については集計を行い、結果を河川整備計画に反映させた。

集計方法は単純集計、クロス集計とした。クロス集計は、委員のご意見を踏まえ、身近な河川ごとの特性を把握するため実施した。

(2) 調査対象者

アンケート調査は、紙媒体の調査と WEB 調査を実施した。

紙媒体では、流域内及び氾濫原の各世帯を対象として日本郵便株式会社のサービスである「タウンプラス」を使用し、WEB 調査では広島県 HP に公開し回答を得るものとした。



アンケート配布範囲

※流域及び氾濫原に関わる対象の地域とした上で、東広島市安芸津町には山間部や流域外及び氾濫原とならない地区を除き、配布範囲を設定した。

(3) 配布数

<紙媒体>

1,378 部：日本郵便株式会社の各戸郵便受け設置数による集計

<WEB 媒体>

無制限：広島県 HP に紙媒体と同じ内容のアンケート（Excel 形式）を掲載

(4) 配布方法

紙媒体の配布は、次のとおりとした。

配布方法：アンケート用紙及び返信用封筒（長 3）在中の封筒（角 2）を郵便局に持ち込み、ポストに投函

(5) アンケート調査期間

アンケート調査期間は、次のとおりとした。

<紙媒体>

・差出期間（配布期間）

令和 4 年 2 月 14 日（月）～ 令和 4 年 2 月 28 日（月）

・アンケート調査期間

令和 4 年 2 月 14 日（月）～ 令和 4 年 2 月 28 日（月）（14 日間）

※令和 4 年 3 月 2 日消印のあるものを対象とした。

<WEB 媒体>

・アンケート調査期間

令和 4 年 2 月 14 日（月）～ 令和 4 年 3 月 14 日（月）（31 日間）

(6) アンケート回収率

アンケート回収率は以下のとおりである。

アンケート回答率等一覧表

形式	配布数	回答数	自由意見数	回収率
紙	1,378	585	270	42.63%
WEB	無制限	4	1	—
合計	—	589	271	—

※令和 4 年 3 月 2 日消印のあるものを対象とした。

2. アンケート調査票

アンケート調査票は、以下に示すとおりである。

三津大川水系の川づくりについてのアンケート

別紙

みなさんのご意見をお聞かせください！

日頃より、広島県行政の推進に御協力いただき、お礼を申し上げます。

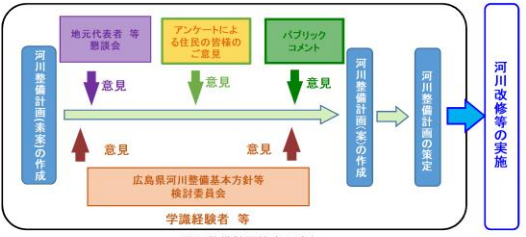
三津大川水系で平成30年7月・令和3年7月の豪雨で、河川の氾濫や市街地内の水路等から溢れた水による浸水被害が発生していることから、広島県では、三津大川水系における今後概ね20年間の「具体的な整備の目標」及び「整備内容」を定めた「三津大川水系河川整備計画」の策定を進めています。

計画策定に際し、地域の皆様が日頃から感じていることや川づくりを求めることなどを広く伺い、計画策定の参考とさせていただくためにアンケート調査を行います。

より良い「川づくり」の検討のため、ご協力をお願い致します。

■河川整備計画とは・・・

河川整備計画は、概ね10～30年間の具体的な河川工事及び河川の維持に関する事項等を定めた計画です。地域住民の皆様や学識経験者の意見を聴取し、策定することが河川法で規定されています。



河川整備計画策定の流れ

別紙「アンケート調査用紙」にご記入の上、同封の返信用封筒に入れ、**令和4年2月28日（月）**までに返送してください（切手は不要です）。

- ※ このアンケートにより収集した情報は、河川整備計画の作成にのみ使用いたします。
- ※ アンケート調査の結果は、「第27回河川整備基本方針等検討委員会」の中で報告するほか、広島県河川課のホームページに掲載させていただきます。
- ※ アンケート調査用紙は広島県西部建設事務所 東広島支所でも入手可能です。
- ※ 本アンケートは下記のURLからも回答できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/seibikeikaku-pabukome.html>
 （「広島県 河川課 整備計画 アンケート」で検索）

<連絡先> 広島県 西部建設事務所 東広島支所 担当者 事業調整特別班 橋之内 正
 〒739-0014 広島県 西条郡和町13-10 TEL (082)422-6911 FAX (082)422-7499

三津大川の流域の概要

三津大川は、流域面積25.3km²、流路延長5.2kmの二級河川です。その流れは、東広島市安芸津町内に発し、途中、数無川、岩伏川、隠畑川を合流し、三津湾に注いでいます。

河川沿い及び河口付近に農地や宅地が存在し、特に下流部の安芸津町三津地区において河川沿いに家屋が連担しています。



浸水被害の発生状況

三津大川水系では、平成30年7月・令和3年7月の豪雨による洪水で、河川の断面積不足、堤防高不足に加え、河道への土砂堆積もあり、広範囲に浸水被害が生じ、甚大な被害が発生しました。



裏面へ

三津大川水系の河川整備(素案)の概要

別紙

広島県ではこのような川づくりを検討しています

治水の内容について

既往最大規模となった平成30年7月洪水、並びに令和3年7月洪水相当の流量に対し、河川からの氾濫による家屋浸水被害の防止を図ります。



河川整備計画対象区間(広島県管理区間)

利水の内容について

貴重な動植物の生息・生育環境、景観を保全し、比較的良好な現在の流況を維持します。また、洪水時には関連情報を収集し、状況把握や河川流量等に関する情報提供を行うなど円滑な治水調整を行います。

さらに、河川の水質・流況改善については、流域の水循環のあり方を検討し、流域の市街化の進展及び土地利用の変化などに起因する水質悪化が懸念される際の対応など、住民や関係機関と連携を図りながらその対策を行います。

河川環境の内容について

河川環境の整備と保全に関しては、貴重な動植物の生息・生育場となっている水環境の保全、オイカワやオオヨシノボリなどの魚類の移動に考慮した河川の縦断的連続性ならびに水際の連続性の確保など、河川毎、地域毎の特性に配慮した河川環境の整備を図るとともに、関係機関と協力しながら、水環境を保全します。

河川空間の利用に関しては、地元住民が河川に親しみを感ずり、河川空間の利用が図られるように、親水性等を考慮した護岸など河川環境に配慮します。また、関係機関や地元住民と連携しながら、河川の水質、動植物の生息・生育・繁殖環境、そして河口部に広がる良好な干潟を保全します。



維持管理・関係機関との連携の内容について

堆積した土砂等が、治水支障となる場合は、環境面に配慮しつつ撤去等必要な対策を講じます。また、河川改修区間以外で、平成30年7月洪水、並びに令和3年7月洪水相当の流量で、家屋浸水被害が生じる区間について、護岸のかさ上げを実施するなど、家屋浸水被害の軽減に努めます。

近年、増加している内水氾濫に対し、広島県、東広島市等が連携し、必要に応じて総合的な治水対策を実施し、内水被害や外水被害の軽減を図ります。

アンケートは、別の用紙になります。ご協力をお願いいたします。 ※三津大川支川の隠畑川や数無川などの災害復旧についても、順次進めて参ります。

アンケート調査用紙

皆様のご意見を川づくりの参考にさせていただきます。

- 今回のアンケート調査は、「三津大川水系河川整備計画」を策定するにあたり、地域住民の皆様が日頃から感じていることや川づくりに求めることなどを広く伺い、計画を検討する際の参考とさせていただきますために行うものです。
- 回答は選択肢の中から選び、本アンケート用紙に直接○を付けてください。また、「その他」を選択した場合は、後ろの()内に具体的にその内容をご記入ください。
質問によっては、「複数選択可」としていますので、ご注意ください。
- 質問は、質問1～質問16まで存在し、おもて面、うら面にございます。
- なお、本アンケートにご回答いただく前に、別紙の「三津大川水系の川づくりについてのアンケート」を一読して頂き、以下の質問にお答えください。
- 本アンケートは、下記のURLからも回答できます。
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/seibikeikaku-pabukome.html
(「広島県 河川課 整備計画 アンケート」で検索)

基本属性

- 質問1 年齢を教えてください(1つ選択)
- ①20歳未満 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70歳以上
- 質問2 お住まいの地域を教えてください
- ①安芸津バイパスより南、三津大川の東側(JR安芸津駅側)
②安芸津バイパスより南、三津大川の西側(興立安芸津病院側)
③安芸津バイパスより北へ中ノ村・向嶋・立花・印内地区 ④隠岐・伏尾地区
⑤信吾・岩伏・正司隠地区 ⑥市之郷地区 ⑦蚊無地区 ⑧その他()
- 質問3 三津大川水系において「最も身近な川」はどれですか(1つ選択)
- ①三津大川 ②隠堀川 ③岩伏川 ④蚊無川 } 質問4へ(①～⑤回答の方)
⑤その他(川)
⑥身近な川はない⇒ 質問8へ

- 質問4 現在お住まいの場所は、「身近な川」から徒歩で何分かりますか(1つ選択)
- ①川沿い(徒歩1分以内) ②川沿いではないが、徒歩5分以内 ③徒歩5～10分
④徒歩10～20分 ⑤徒歩20分以上

- 質問5-1 いつから現在の場所にお住まいですか(1つ選択)
- ①平成31年以降 ②平成21年以降 ③平成10年以降 ④昭和50年以降
⑤昭和40年以降 ⑥昭和40年以前

- 質問5-2 現在お住まいの場所で平成30年7月洪水、令和3年7月洪水以外に水害を経験したことがありますか(1つ選択)
- ①ある ⇒経験した災害を全て記入してください()
②ない

治水について感じていること

- 質問13-1 現在の「三津大川水系」の治水(洪水対策)について、どのように感じていますか
- ①十分である ②不十分である ③よくわからない
- 質問13-2 今後、「三津大川水系」の治水(洪水対策)について、特に必要なものは何だと思われますか(複数選択可)
- ①川幅を広げる、堤防のかさ上げなどの河川改修 ②堤防や護岸を壊れにくくする質的強化
③河道掘削や樹木伐採などの維持管理 ④砂防ダムによる土砂災害対策などの連携
⑤カメラや水位計等の防災情報の提供体制の強化 ⑥講習会や授業など防災意識の普及、啓発
⑦消防団等による体制強化 ⑧県、市、住民等の関係者間の連携強化 ⑨現状のままで満足している
⑩その他()
- 質問13-3 別紙の「三津大川水系の河川整備(素案)の概要」に記載しております治水の内容について、
- ①たいへん満足である ②どちらかといえば満足である ③どちらでもない
④どちらかといえば不満である ⑤たいへん不満である

利水、河川環境について感じていること

- 質問14-1 現在、「三津大川」の水量・水利用についてどのように感じていますか(複数選択可)
- ①日照りのときでも、水量が豊かな川である ②日照りのときに、水量が少ない川である
③農業用水などの利用が多い川である ④農業用水などの利用が少ない川である
⑤とくに何も感じない
⑥その他()
- 質問14-2 現在、「三津大川」の河川環境についてどのように感じていますか(複数選択可)
- ①色々な動植物が生育・生息する川 ②水辺で休息・散策ができ、遊べる川
③きれいな水が流れている川 ④河川環境がよくない川(理由)
⑤とくに何も感じない
⑥その他()
- 質問14-3 今後、「三津大川」の水利用、河川環境に対して特に何を期待しますか(複数選択可)
- ①色々な動植物が生育・生息する川 ②水辺で休息・散策ができ、遊べる川
③手を加えない自然のままの川 ④きれいな水が流れている川
⑤農業などに利用できる川 ⑥湧水が起きない川
⑦維持管理が行き届いている川 ⑧現状のままで満足している
⑨その他()
- 質問14-4 別紙の「三津大川水系の河川整備(素案)の概要」に記載しております、利水の内容並びに、
河川環境の内容について、どう思いますか(1つ選択)
- ①たいへん満足である ②どちらかといえば満足である ③どちらでもない
④どちらかといえば不満である (利水・河川環境) ※④を選択された方：不満のある内容を○で囲んでください
⑤たいへん不満である (利水・河川環境) ※⑤を選択された方：不満のある内容を○で囲んでください

- 質問6 「身近な川」を訪れる主な目的は何ですか(複数選択可)
- ①散歩による通遊 ②自転車・車による通遊 ③散歩・ジョギング ④水遊び
⑤魚釣り ⑥キャンプ・ピクニック ⑦スポーツ ⑧地域の催し
⑨草刈り ⑩その他() ⑪とくにない

- 質問7 「身近な川」を訪れるのはどの程度ですか(1つ選択)
- ①ほぼ毎日 ②週に2～3回 ③週に1回程度 ④月に2～3回
⑤年に数回 ⑥行ったことがない

洪水に対する防災意識(平成30年7月洪水、令和3年7月洪水)

- 質問8 あなたは、近年水害時に避難しましたか(1つ選択)
- 「①はい」を選択された方は、洪水を○で囲んで、避難先を選択してください
- ①はい(平成30年7月洪水・令和3年7月洪水)
(避難先: 避難所 ・ 友人宅 ・ 自宅(2階以上)) ⇒ 質問9へ
②いいえ ⇒ 質問10へ
③わからない ⇒ 質問11へ

- 質問9 質問8で「①はい」(避難した)理由(動機)をお聞かせください(複数選択可)
- ①過去に洪水被害に遭っているから ②テレビ・ラジオの報道を聞いたから
③インターネット(パソコン・携帯電話・スマートフォン)でニュースや避難情報を見たから
④リアルタイム情報(河川水位、カメラ映像等)を見たから
⑤東広島市からの避難情報聞いたから ⑥三津大川の洪水浸水想定区域図を見ていたから
⑦親類・近隣住民等に言われたから ⑧なんとなく ⑨その他()

- 質問10 質問8で「②いいえ」(避難しなかった)理由(動機)をお聞かせください(複数選択可)
- ①過去に洪水被害に遭っていないから ②安全だと思ったから
③避難しようとした際には、既に避難できない状況になっていたから
④テレビ・ラジオ、インターネット、東広島市からの避難情報を知らなかったから
⑤避難場所がわからないから ⑥三津大川の洪水浸水想定区域図を見たことがなかったから
⑦なんとなく ⑧その他()

防災情報の入手手段

- 質問11 災害時にあなたが防災情報の収集を行う際に、最も利用するものは何ですか(1つ選択)
- ①テレビ・ラジオ ②インターネット(パソコン・携帯電話・スマートフォン)
③緊急告知ラジオ(東広島FM)放送・広報車
④周囲の人から聞く ⑤その他()

- 質問12 平時時に防災に関する知識を、あなたはどのように入手していますか(複数選択可)
- ①テレビ・ラジオ ②新聞・雑誌 ③学校での教育 ④インターネット
⑤自治体などのパンフレット ⑥自治体やNPOなどによる講演会 ⑦自治会など地域の集会
⑧その他()

「うら面」へお進みください

うら面

維持管理について感じていること

- 質問15 平常時の川との関わり方に関する考え方に、最も近いものを選んでください(1つ選択)
- ①地域住民が積極的にボランティア活動を行い、行政に代わり主体的に地域の川の維持管理を行う
②地域住民と行政が連携して、役割を決めながら維持管理を行う
③基本的には行政主導で、希望する地域住民に声かけや支援を行いながら維持管理を行う
④行政が全て維持管理を行う ⑤わからない
⑥その他()

今後の三津大川水系の河川整備の優先度について

- 質問16 今後の三津大川の河川整備は、どういった点を優先的に実施してほしいと思いますか(1つ選択)
- ①河川改修等ハード面での治水対策 ②防災情報の充実や防災意識の普及等ソフト面での治水対策
③農業など水の利用に関する整備 ④水質をよくする整備
⑤自然環境の保全、再生に関する整備 ⑥運動やイベント等水辺で活動できる空間の整備
⑦その他()

- 「三津大川水系の河川整備(素案)の概要」に関するご意見など、ご自由にお書きください
(ご意見が「どのような項目に該当するか」を選択(Oを記入)した上で、記入してください)
(記入欄)

項目： 治水 ・ 利水 ・ 河川環境 ・ 維持管理 ・ その他

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
誠に勝手ではございますが、アンケートの回答期間は以下のとおりとさせていただきます。

令和4年2月28日(月)までにポストに投函してください

※アンケートの回答は、同封の「返信用封筒」にてご返信ください。

問い合わせ先
[アンケート実施者] 広島県 西部建設事務所 東広島支所 担当：掛之内 正 TEL:082-422-6911
[アンケート委託業者] 中電技術コンサルティング株式会社 河川本部河川砂防部 担当：天野 山本 TEL:082-256-3348

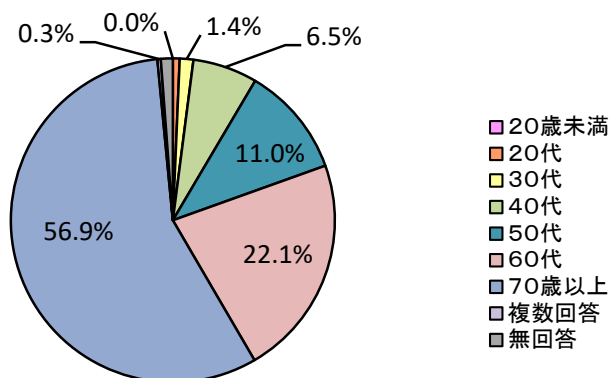
3. アンケート調査結果(単純集計)

3.1 基本属性

質問 1. 年齢を教えてください

年齢構成で最も多いのは「70 歳以上」であり、続いて「60 代」、「50 代」の割合が高く、60 歳以上の回答者が全体の約 80%と高い割合を占める。

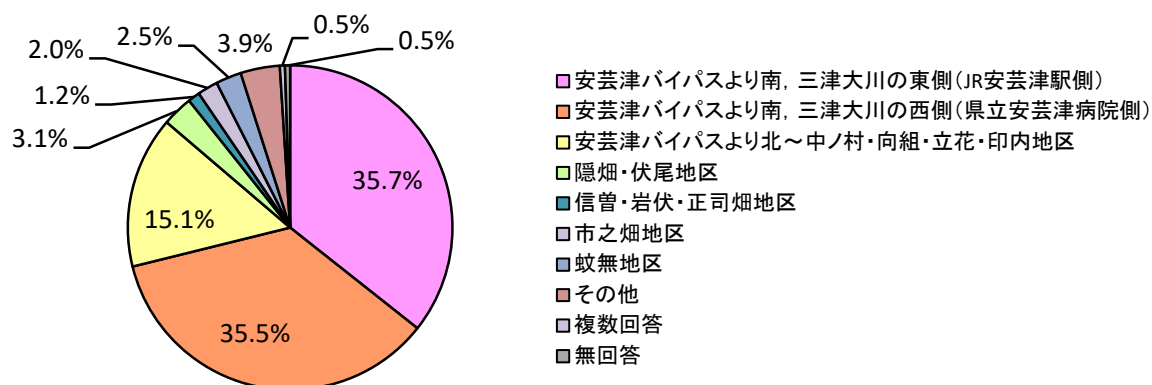
回答数 589



質問 2. お住まいの地域を教えてください

原則として、東広島市安芸津町に配布しており、無回答の方を除き、その他の地域を回答された方はいない。

回答数 589



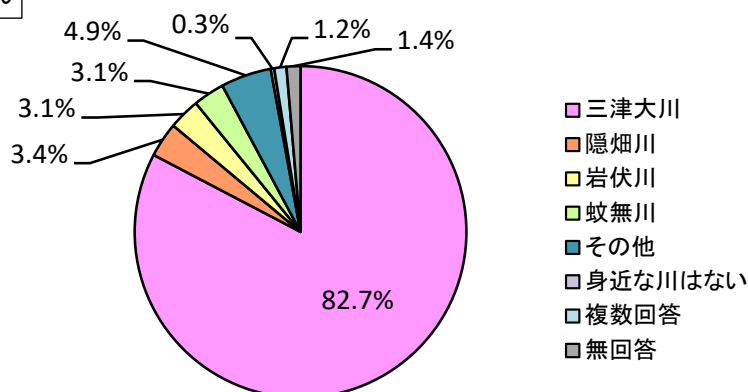
質問3. 三津大川水系において「最も身近な川」はどれですか

身近に感じる河川としては、三津大川本川が約80%を占めている。

次いで「隠畑川」(約3.4%)、「岩伏川」(約3.1%)、「蚊無川」(約3.1%)が多い状況であった。

後述のクロス集計は、三津大川、隠畑川、岩伏川、蚊無川、その他河川の5区分で実施する。

回答数 589

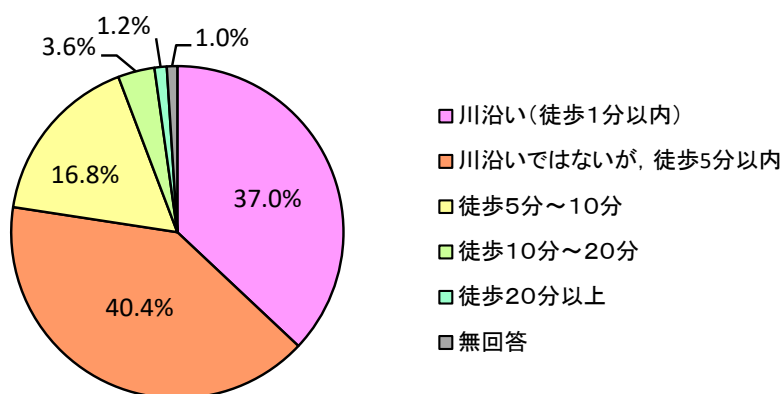


質問4. 現在お住まいの場所は、「身近な川」から徒歩で何分かかりますか

川から「徒歩5分以内」と回答した人が最も多く約40%を占めている。次いで、「川沿い」の割合が高く、5分以内の回答者が全体の約77%と高い割合を占めている。

河川周辺にお住まいの方の回答が多いことがわかる。

回答数 589

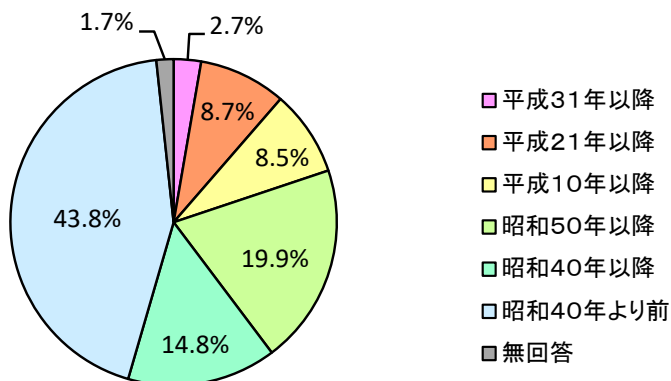


質問５－１．いつから現在の場所にお住まいですか

「昭和 40 年より前」から住んでいると回答した人が最も多く約 44%を占めている。

「平成 31 年以降」に住まれた方は、約 3%となっている

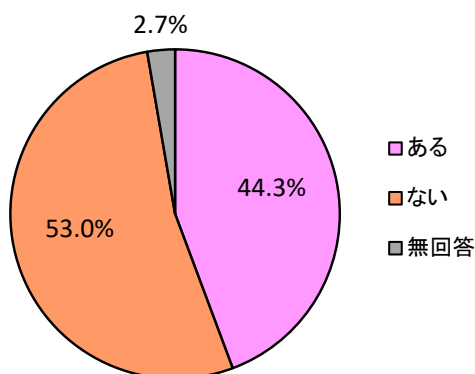
回答数 589



質問５－２ 現在お住まいの場所で平成 30 年 7 月洪水、令和 3 年 7 月洪水以外に水害を経験したことがありますか

平成 30 年 7 月洪水以前に水害を経験したことのない方が約 53%であり、約半数の方は、災害を経験していないことがわかる。

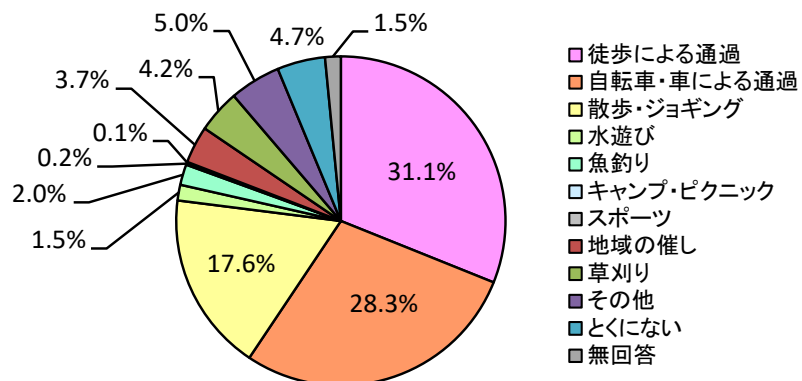
回答数 589



質問 6. 「身近な川」を訪れる主な目的は何ですか

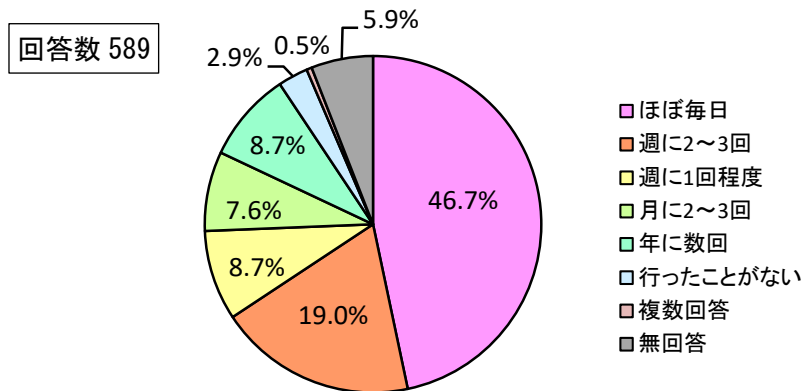
「身近な川」を訪れる主な目的としては、徒歩や自転車・車による通過が約 60%を占め、最も多い。次いで、「散歩・ジョギング」(約 18%)が多い。

回答数 1039
(複数回答)



質問7. 「身近な川」に訪れるのはどの程度ですか

「身近な川」に訪れる頻度は、「ほぼ毎日」が約50%を占めている。一方で、年に数回以下が約20%程度であり、河川とつながりの深い地域であることがわかる。



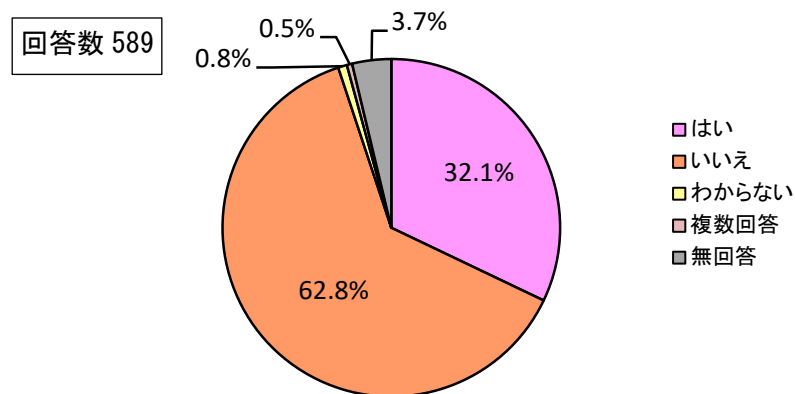
3.3 洪水に対する防災意識（平成 30 年 7 月洪水、令和 3 年 7 月洪水）

質問 8. あなたは、近年水害時に避難しましたか

※「①はい」を選択された方は、避難先を選択してください

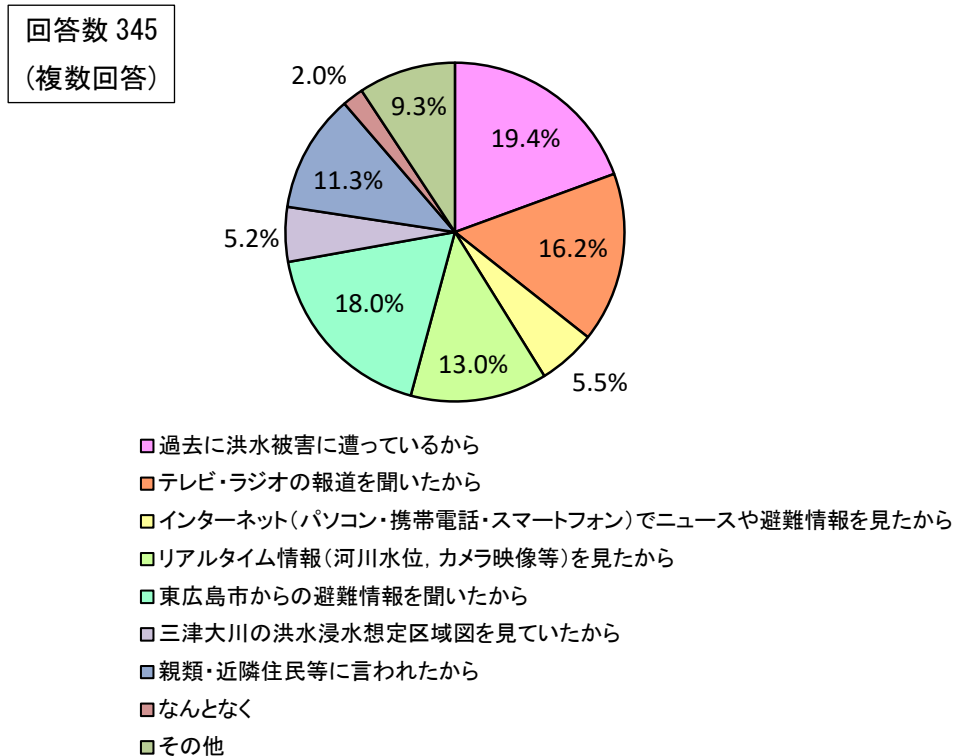
避難の有無は、「②いいえ」との回答が約 63%を占め、「①はい」と答えた人の割合（約 32%）を大きく上回っている。

平成 30 年 7 月洪水、令和 3 年 7 月洪水は、甚大な被害が発生した洪水であり、避難行動のあり方について、河川管理者、自治体、地域住民が一体となった取り組みが必要である。



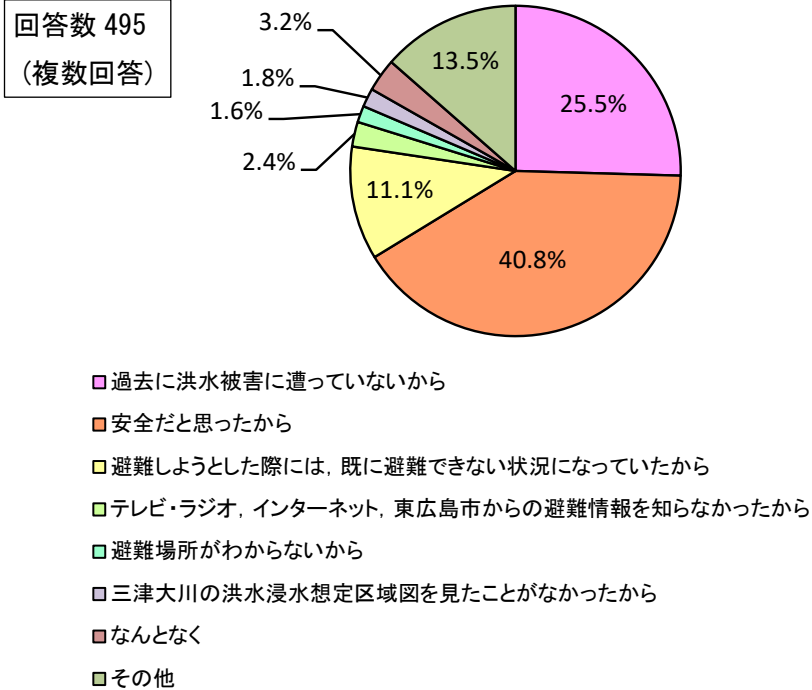
質問 9. 質問 8 で「①はい」（避難した）理由（動機）をお聞かせください

避難された方の避難理由は「過去に洪水被害に遭っている」が約 20%を占めており、次いで、「東広島市からの避難情報を聞いたから」が多くなっている。



質問１０．質問８で「②いいえ」（避難しなかった）理由（動機）をお聞かせください

避難しなかった理由は「安全だと思ったから」が約 41%を占め最も多くなっている。次いで、「過去に洪水被害に遭っていないから」が約 26%を占めている。



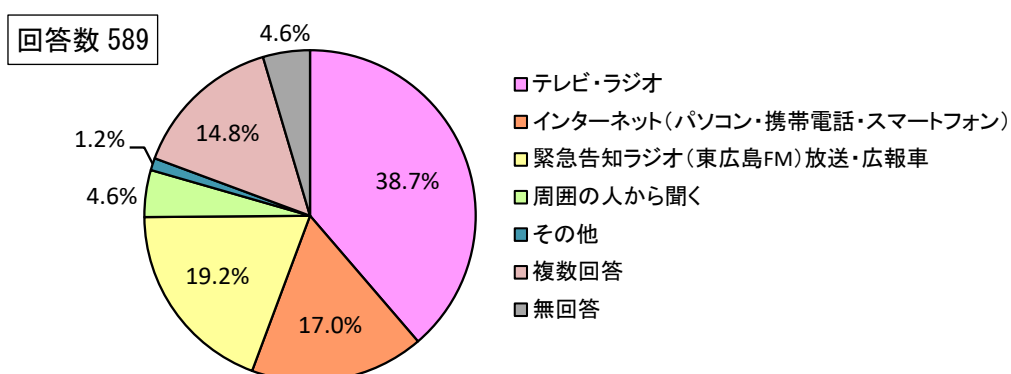
3.4 防災情報の入手手段

質問 1 1. 災害時にあなたが防災情報の収集を行う際に、最も利用するものは何ですか

防災情報の収集を行う際に、最も利用するものとしては「テレビ・ラジオ」(約 39%), 次いで、「緊急告知ラジオ」が約 19%を占めている。

緊急告知ラジオよりもインターネットを利用されている方が少ない傾向にある。

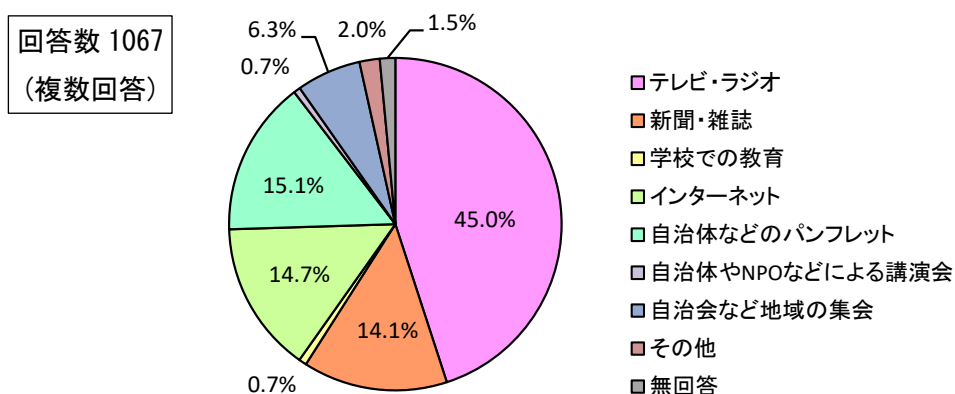
アンケート調査の回答者の年齢層において 60 代以上が、約 80%を占めていることから、インターネットではなく緊急告知ラジオも利用されていることがわかる。



質問 1 2. 平常時に防災に関する知識を、あなたはどのように入手していますか

防災に関する知識の入手方法は、「テレビ・ラジオ」が最も多く、約 45%を占めている。

次いで、「自治体などのパンフレット」、「インターネット」となっており、それぞれ約 15%となっている。

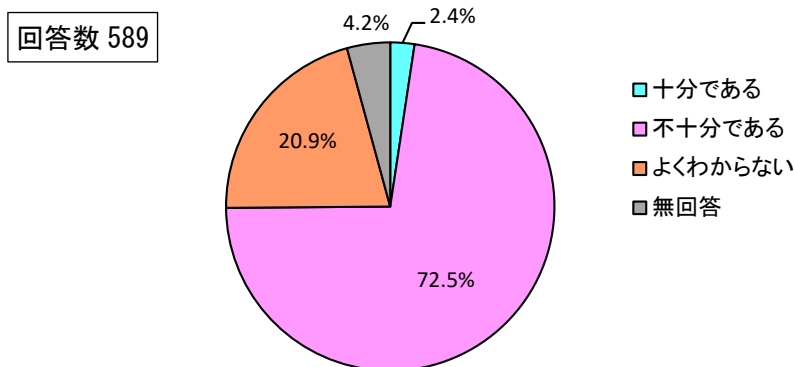


3.5 治水について感じていること

質問 1 3 - 1. 現在の「三津大川水系」の治水（洪水対策）について、どのように感じていますか

治水に対し感じていることとして、「十分である」と回答される方が約 2%と選択肢の中では最も少ない。

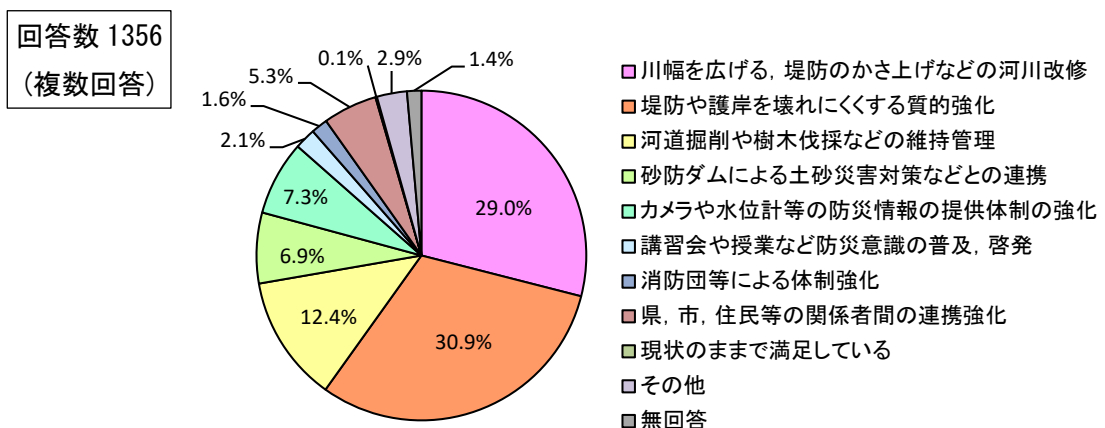
「不十分である」と回答される方が約 72%と選択肢の中では最も多く、特に必要なものに対しては、クロス集計を行った。



質問 1 3 - 2. 今後、「三津大川水系」の治水（洪水対策）について、特に必要なものは何かと思いますか

今後、治水に対して特に必要なものとしては「堤防や護岸を壊れにくくする質的強化」が約 31%と最も多く、次いで「川幅を広げる、堤防のかさ上げなどの河川改修」（約 29%）となっている。

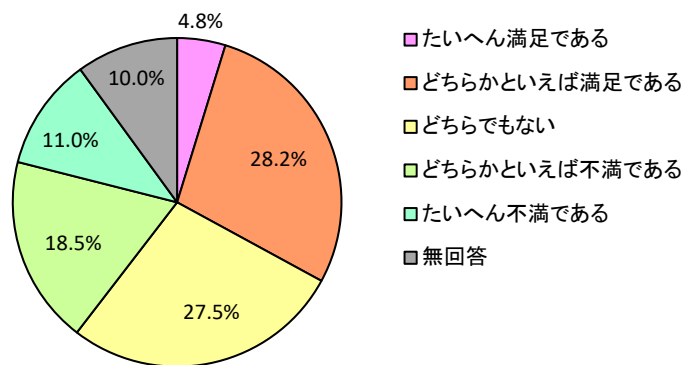
「堤防や護岸を壊れにくくする質的強化」及び「川幅を広げる、堤防のかさ上げなどの河川改修」のハード整備に対するしては、平成 30 年 7 月洪水や令和 3 年 7 月洪水において、流下能力不足や護岸崩壊を経験されており、浸水被害軽減への対応を期待しているものと推測される。



質問 1 3 - 3. 別紙の「三津大川水系の河川整備（素案）の概要」に記載しております治水の内容について、どう思いますか

河川整備計画(素案)の概要に記載している治水の内容については、「満足」と回答される方が約 33%を占め、「不満」と回答される方が約 30%となっている。

回答数 589

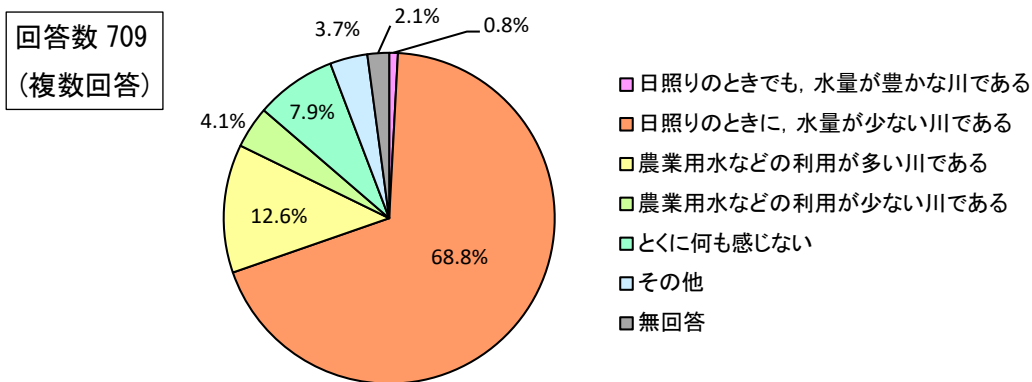


3.6 利水、河川環境について感じていること

質問 1 4 - 1. 現在、「三津大川」の水量・水利用についてどのように感じていますか

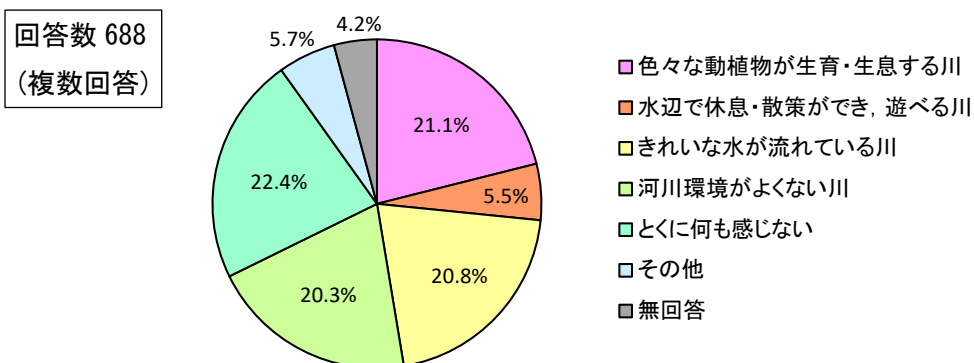
水量・水利用に対し感じていることとして、「水量が豊かな川である」と回答される方が約 1%と選択肢の中では最も少ない。

「水量が少ない川である」と回答される方が約 70%と選択肢の中では最も多く、特に必要なものに対しては、クロス集計を行った。



質問 1 4 - 2. 現在、「三津大川」の河川環境についてどのように感じていますか

河川環境に対し感じていることとして、「何も感じない」と回答される方が約 22%と選択肢の中では最も多く、次いで「色々な動植物が生育・生息する川」，「河川環境がよくない川」，「きれいな水が流れている川」と回答される方が約 21%となっており、河川毎によるクロス集計を行った。

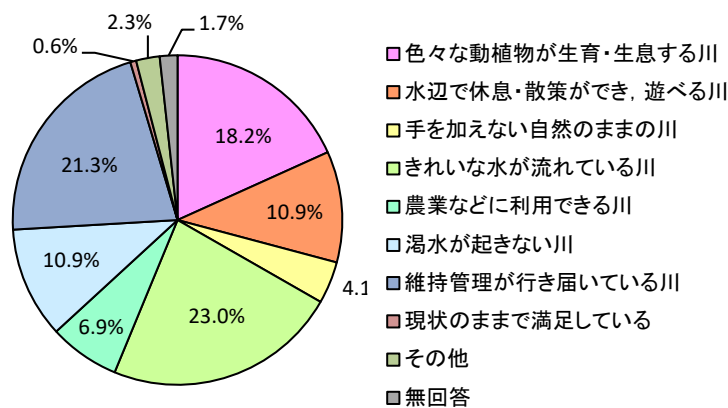


質問 1 4 - 3. 今後、「三津大川」の水利用、河川環境に対して特に何を期待しますか

今後、水利用、河川環境に対して特に期待するものとしては「きれいな水が流れている川」が約 23%と最も多く、次いで「維持管理が行き届いている川」(約 21%)となっている。

質問 14-1 において、水量が少ない川と感じている方が多い傾向があったが、「渇水が起きない川」と回答されている方も約 11%占めており、維持管理を通じてきれいな川としていくことを望まれている状況となっている。

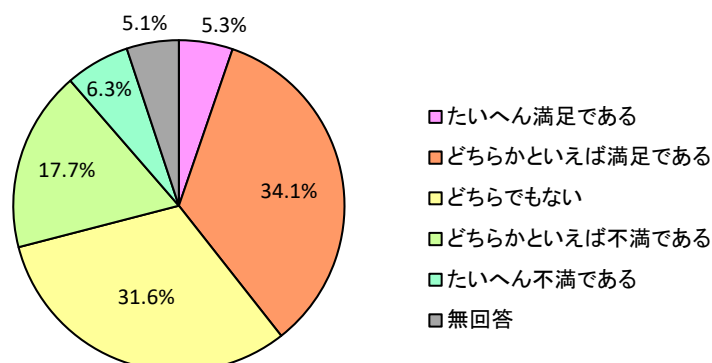
回答数 1211
(複数回答)



質問 1 4 - 4. 別紙の「三津大川水系の河川整備（素案）の概要」に記載しております、利水の内容並びに、河川環境の内容について、どう思いますか

河川整備計画(素案)の概要に記載している利水の内容並びに河川環境の内容については、「満足」と回答される方が約 39%を占め、「不満」と回答される方が約 24%となっており、治水による満足度と比較すると、利水に対する満足度が多く、治水による要望が大きいことがわかる。

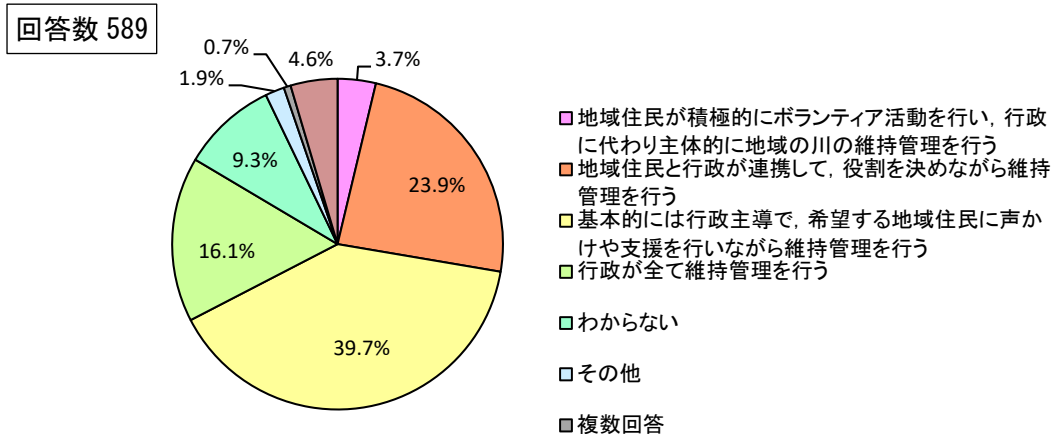
回答数 589



3.7 維持管理について感じていること

質問 15. 平常時の川との関わり方に関する考え方に、最も近いものを選んでください

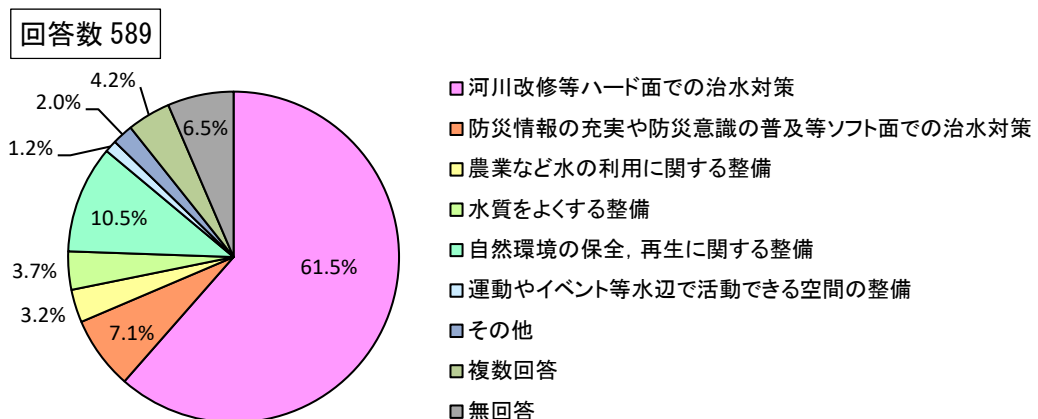
平常時の関わりに関しては、基本的には行政主導で実施する「河川の維持管理」と回答されている方が、約 40%を占めている。なお、「行政がすべて維持管理を行う」と回答された方は、約 16%であり、「地域住民と行政が連携して維持管理を行う」（約 24%）と回答された方よりも少ない傾向であった。



3.8 今後の三津大川水系の河川整備の優先度について

質問 16. 今後の三津大川の河川整備は、こういった点を優先的に実施してほしいと思いますか

河川整備の優先度については、「河川改修等ハード面での治水対策」と回答されている方が、約 62%を占めており、「ソフト面での治水対策」（約 7%）と合計すると約 70%の優先度が治水対策となっている。



3.9 その他（自由意見）

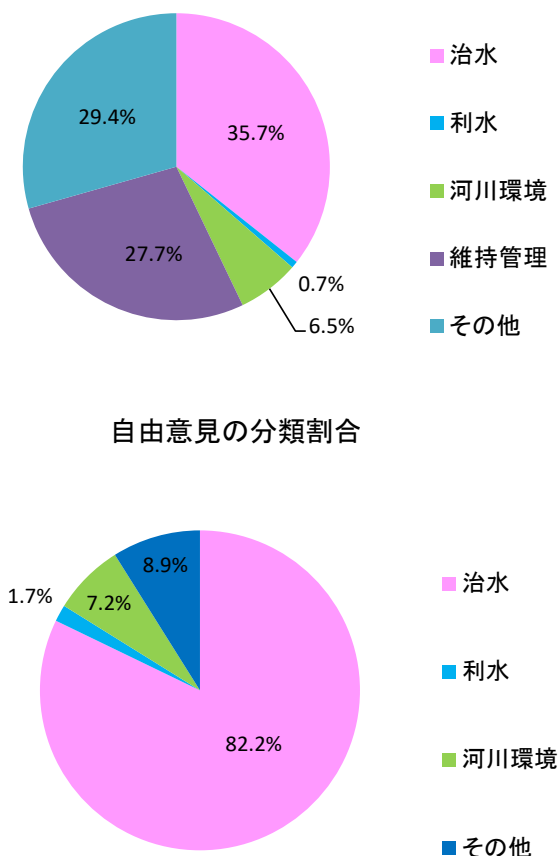
質問 17. 「三津大川水系の河川整備（素案）の概要」に関するご意見など、ご自由にお書きください

アンケートの回答者数 589 に対し、289 名の方々がご回答いただいている。

自由意見を踏まえ、河川整備計画の大項目である「治水」、「利水」、「河川環境」、「維持管理」に分類し、該当しないご意見・ご要望を「その他」とした。

【自由意見の特徴】

- ・自由意見に関しては、治水、維持管理、その他が約 30%となっている。
- ・維持管理、その他を「治水、利水、河川環境」に再分類した結果、約 80%が治水に関するご意見・ご要望となっており、平成 30 年 7 月豪雨への対応等が挙げられている。
- ・自由意見をさらに中分類、小分類と分割した場合、合計 289 のご意見、ご要望をいただいております、代表的なご意見を踏まえた「河川整備計画」への反映が必要である。



大分類	中分類	小分類	人数	備考
治水	全般	安全安心な川づくり	34	治水
	全般	整備方法	63	
	全般	流域治水	6	
	ソフト対策	情報提供	8	
	ソフト対策	避難行動	1	
利水	全般	水量確保	1	利水
	水路	災害復旧	1	
河川環境	全般	整備と保全	3	河川環境
	動植物	保全対策	15	
	河川利用	親水対策	8	
維持管理	治水	河床堆積・樹木	41	治水
	治水	護岸	3	
	河川環境	ゴミ対策	6	河川環境
	その他	河川周辺	1	その他
	全般	災害復旧	67	治水
その他	全般	災害要因	2	
	全般	行政への意見	7	その他
	全般	まちづくり	3	
	全般	アンケート	2	治水
	治水	内水対策	6	
	治水	小河川	8	
	治水	治山・砂防	2	
	維持管理	小河川	1	
合計			289	

【参考】治水・利水・河川環境の分類

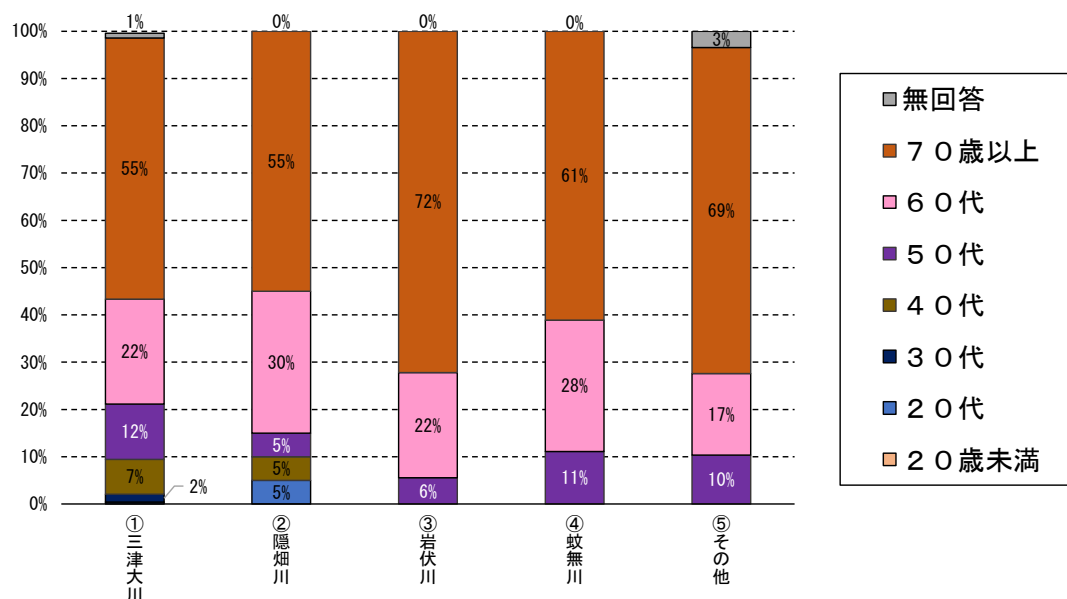
4. アンケート調査結果(クロス集計)

身近な河川(質問3)で三津大川、隠畑川、岩伏川、蚊無川、その他河川の5河川と回答された方の設問ごとの意見をクロス集計し、河川毎の特性について、分析を行った。

4.1 基本属性

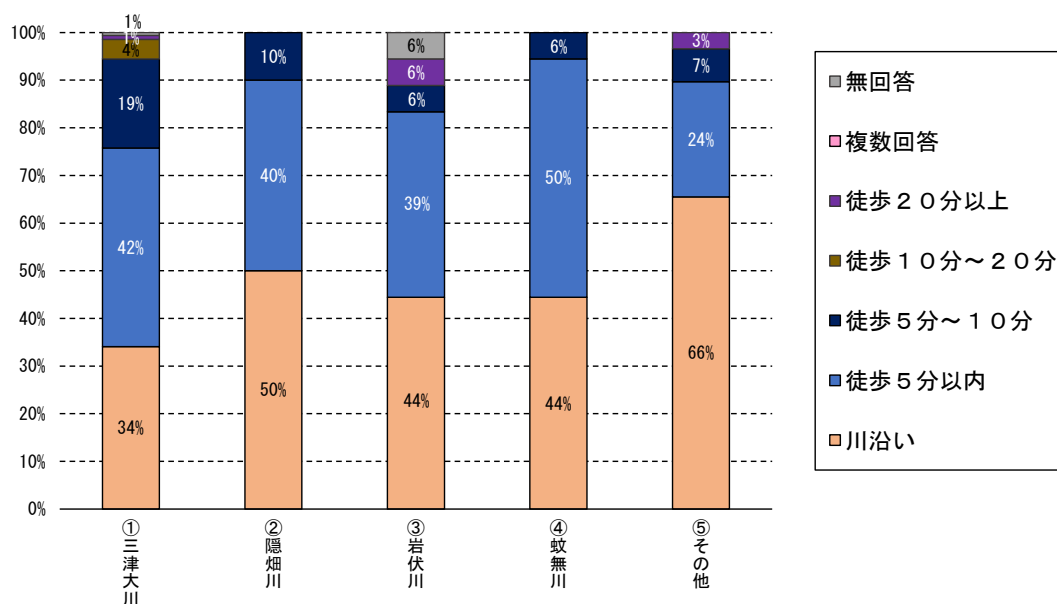
質問1. 年齢を教えてください

全体的に約50%以上が70歳以上を占めているが、下流域の三津大川及び隠畑川では、50代以下の割合が他河川よりも多くなっている。



質問4. 現在お住まいの場所は、「身近な川」から徒歩で何分かかりますか

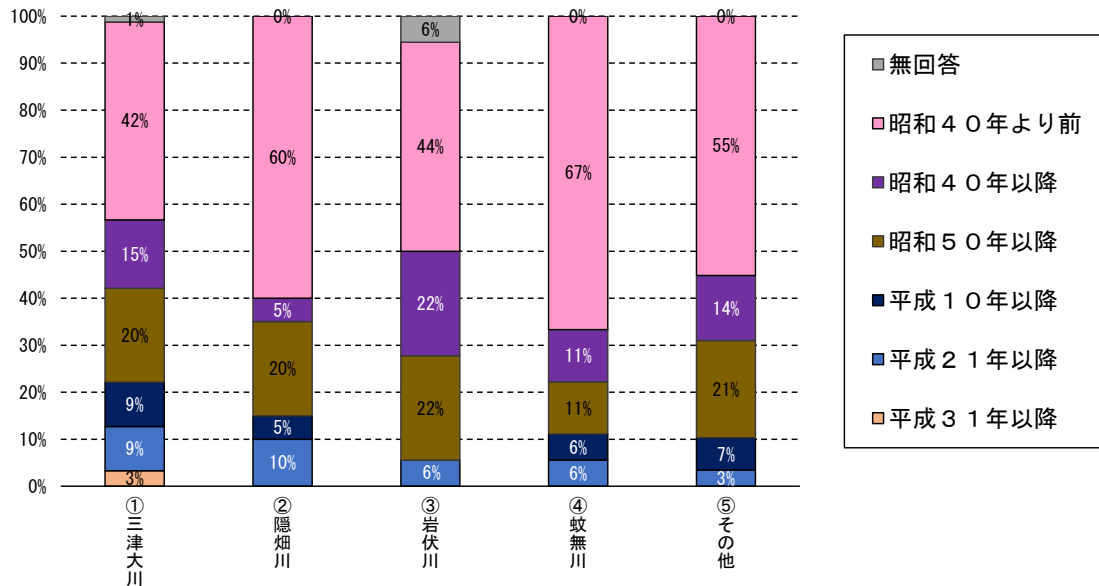
河川に近い方(徒歩10分以内)に着目すると、どの河川も約90%以上と割合が高く、岩伏川90%未満となっている。



質問５－１．いつから現在の場所にお住まいですか

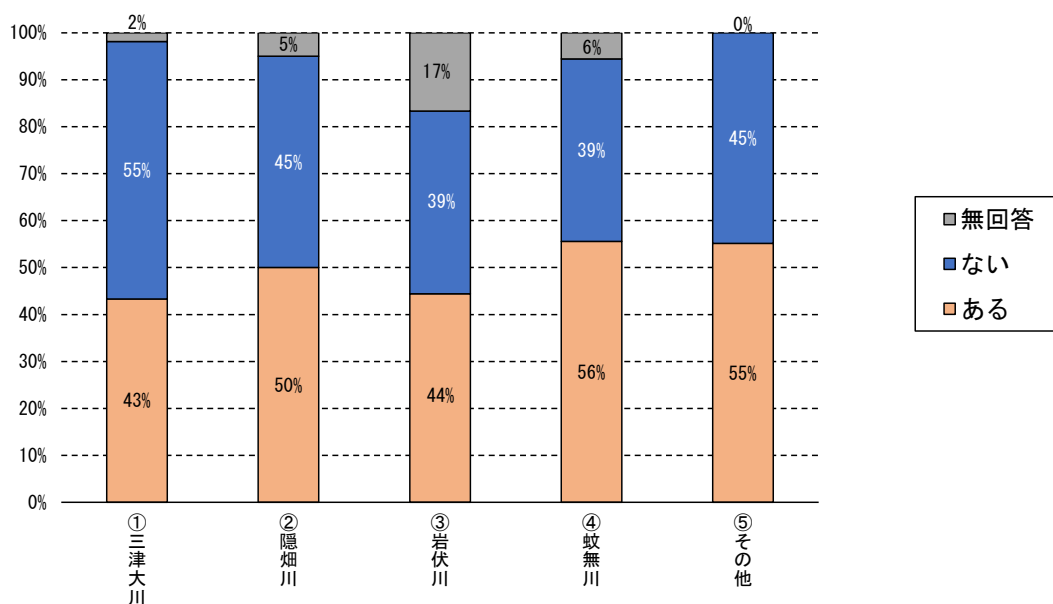
平成 10 年以降からお住まいの方に注目すると、三津大川に関しては、約 20%を占め、次いで隠畑川となっており、質問 1 の年齢層と傾向が類似している。

(安浦市街地(三津小学校)周辺に位置すると考えられる。)



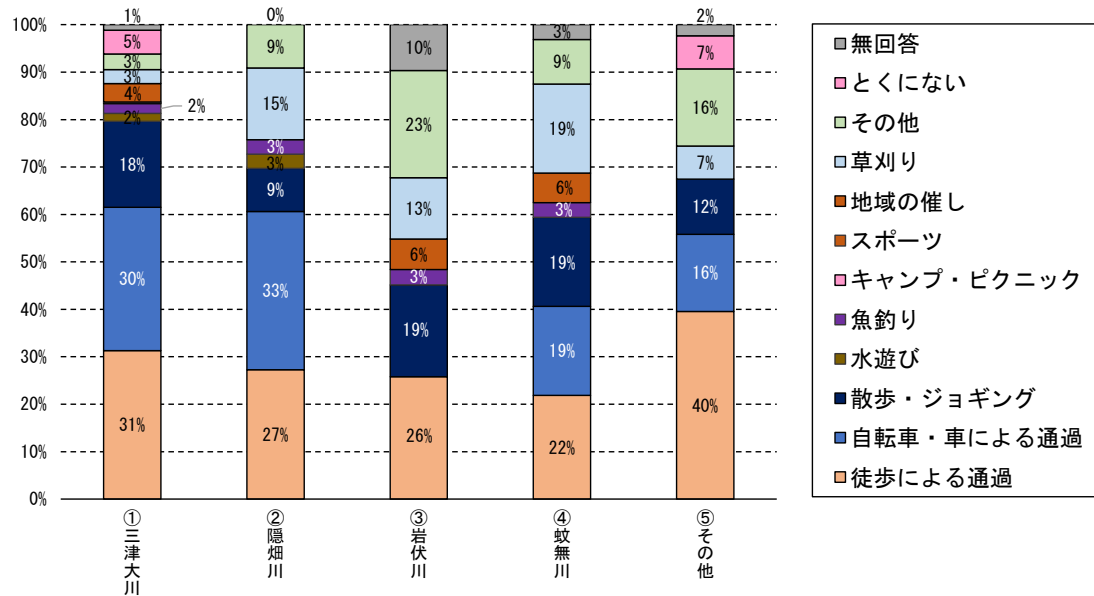
質問５－２ 現在お住まいの場所で平成 30 年 7 月洪水、令和 3 年 7 月洪水以外に水害を経験したことがありますか

平成 30 年 7 月洪水、令和 3 年 7 月洪水以外の水害経験について、河川毎に大きな特性はなく、全般的に約 4 割以上の人水害を経験されている。



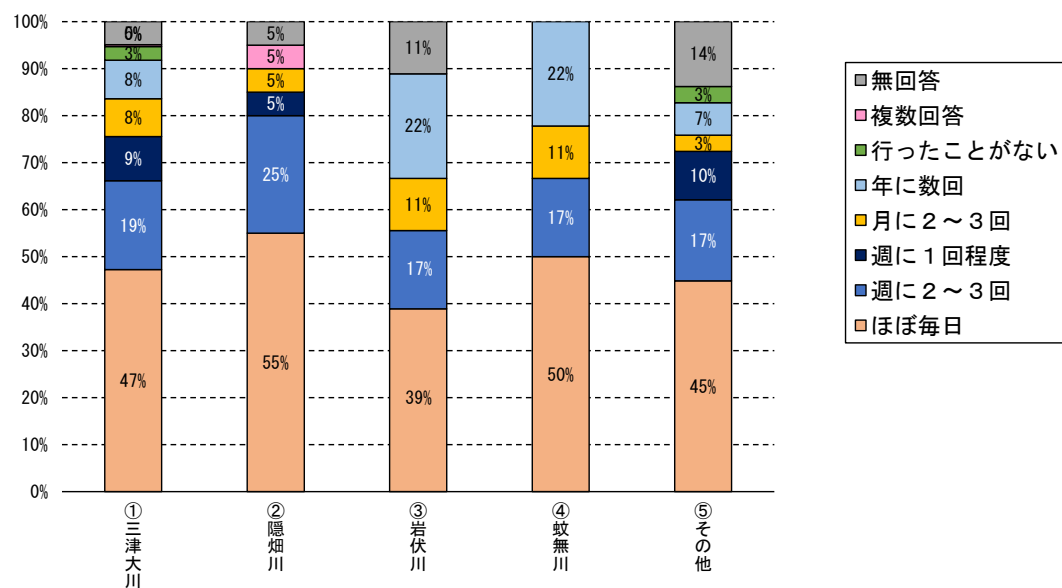
質問6. 「身近な川」を訪れる主な目的は何ですか

「身近な川」を訪れる目的については、三津大川, 隠畑川において徒歩や自転車・車による通過が多い傾向がある。



質問7. 「身近な川」を訪れるのはどの程度ですか

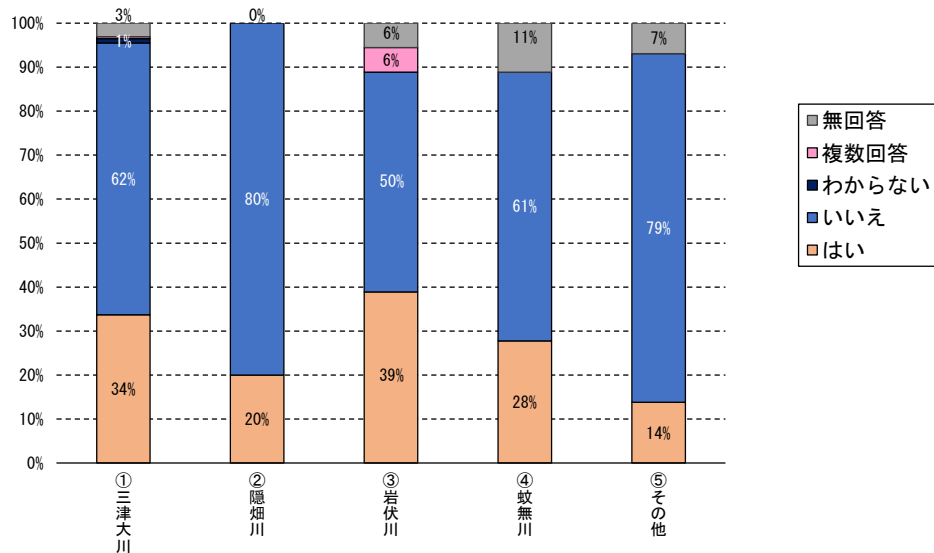
「身近な川」を訪れる頻度について、ほぼ毎日と答えた方が岩伏川に低く、自転車・車による通過が少ない状況に比例していると考えられる。



4.2 洪水に対する防災意識（平成30年7月洪水、令和3年7月洪水）

質問8. あなたは、近年水害時に避難しましたか

三津大川では、避難した割合が約34%と岩伏川に次いで多い傾向となっている。
避難した動機についても、割合を分析する必要がある。

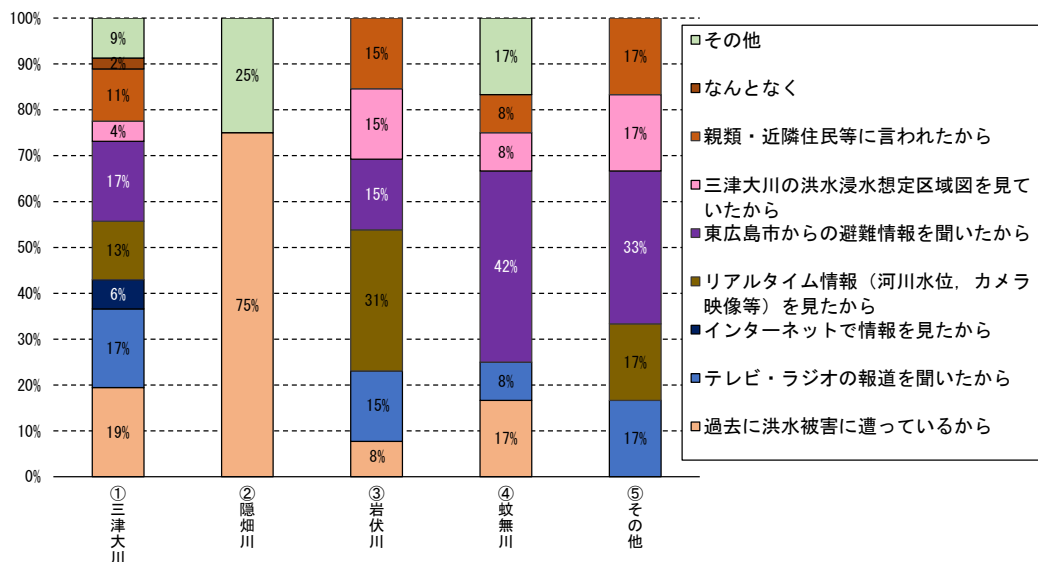


質問9. 質問8で「①はい」（避難した）理由（動機）をお聞かせください

避難割合が多かった三津大川の避難理由は、過去に洪水被害に遭っている方が最も多く約20%となっている。平成30年7月洪水及び令和3年7月洪水により、被災した方も含め、避難する傾向となっている。

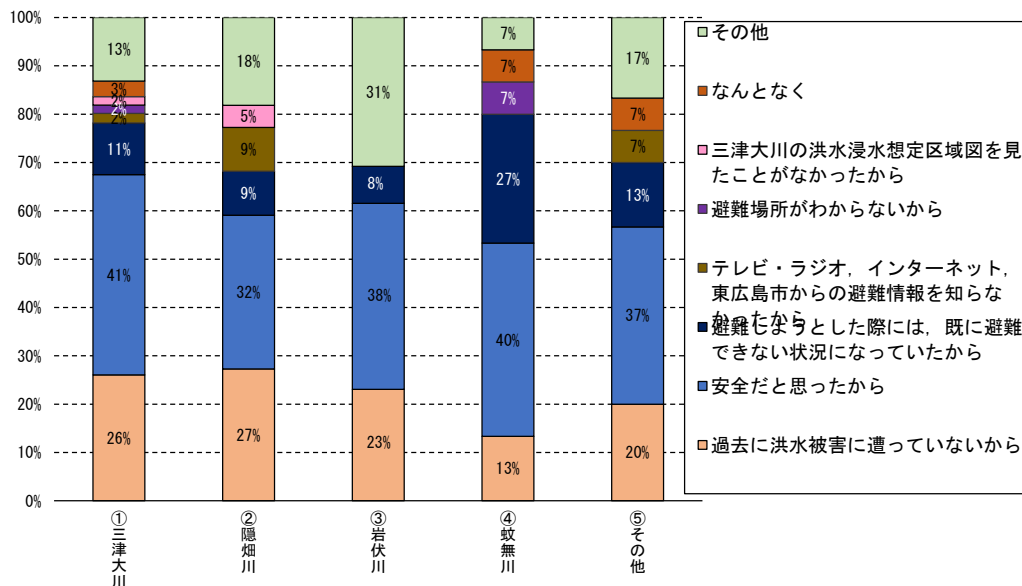
隠畑川は、過去に洪水被害に遭っている方が多いが、実際に避難した方は三津大川に比べて少ない傾向にある。

蚊無川においては、東広島市からの避難情報によるものが約42%と多く、各河川により避難する動機が異なる。



質問１０．質問８で「②いいえ」（避難しなかった）理由（動機）をお聞かせください

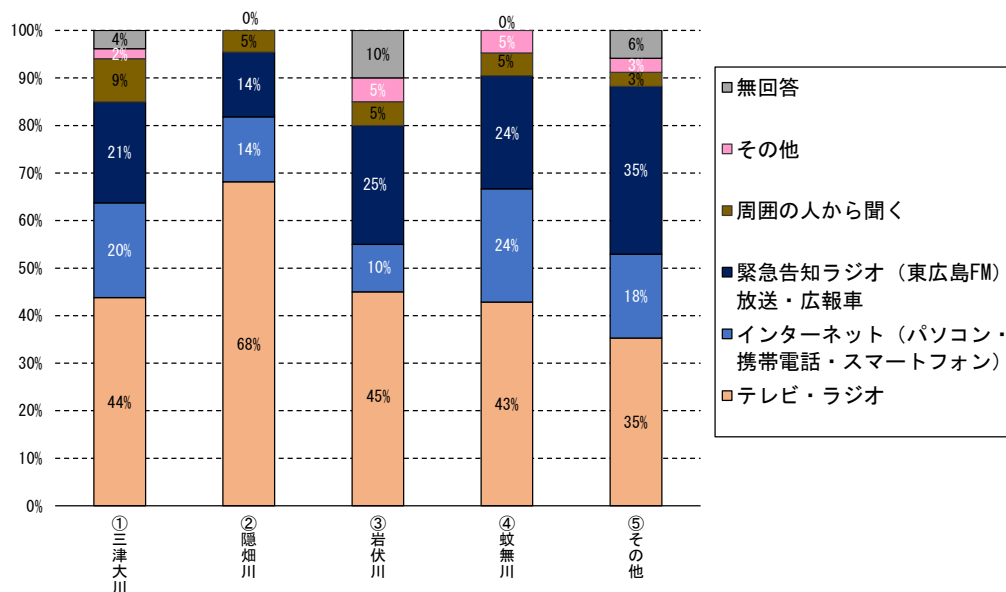
避難しなかった理由（動機）については、各河川で概ね同じ傾向であった。



4.3 防災情報の入手手段

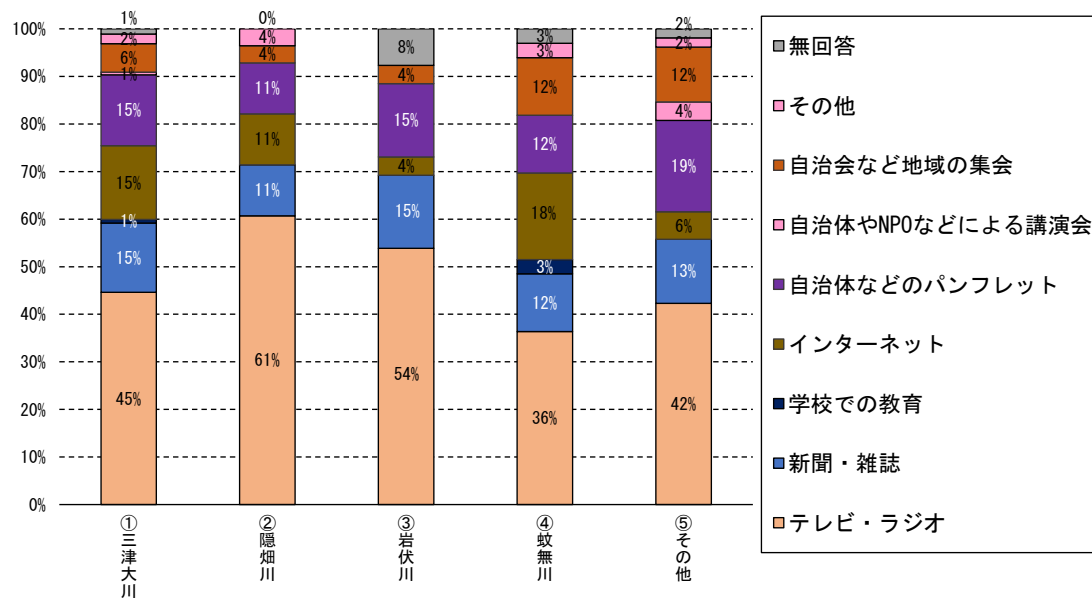
質問１１ 災害時にあなたが防災情報の収集を行う際に、最も利用するものは何ですか

防災情報の収集については、テレビ・ラジオによるものがどの河川も多く占めるが、緊急告知ラジオ・広報車によるものも多く、各河川共に、従来からその土地に住まれている方が多く、これまでの情報伝達方法により収集されている方が多いと考えられる。



質問 1 2. 平常時に防災に関する知識を、あなたはどのように入手していますか

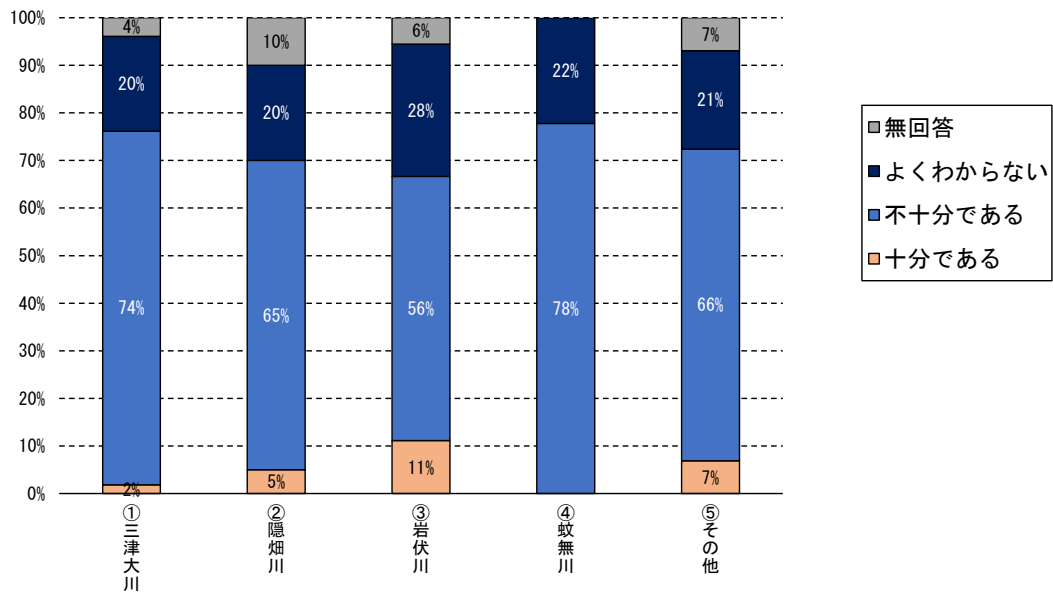
平常時における防災に関する知識は、どの河川も「テレビ・ラジオ」によるものが最も多く占めており、各河川とも同様の傾向である。



4.4 治水について感じていること

質問 1 3 - 1. 現在の「三津大川水系」の治水（洪水対策）について、どのように感じていますか

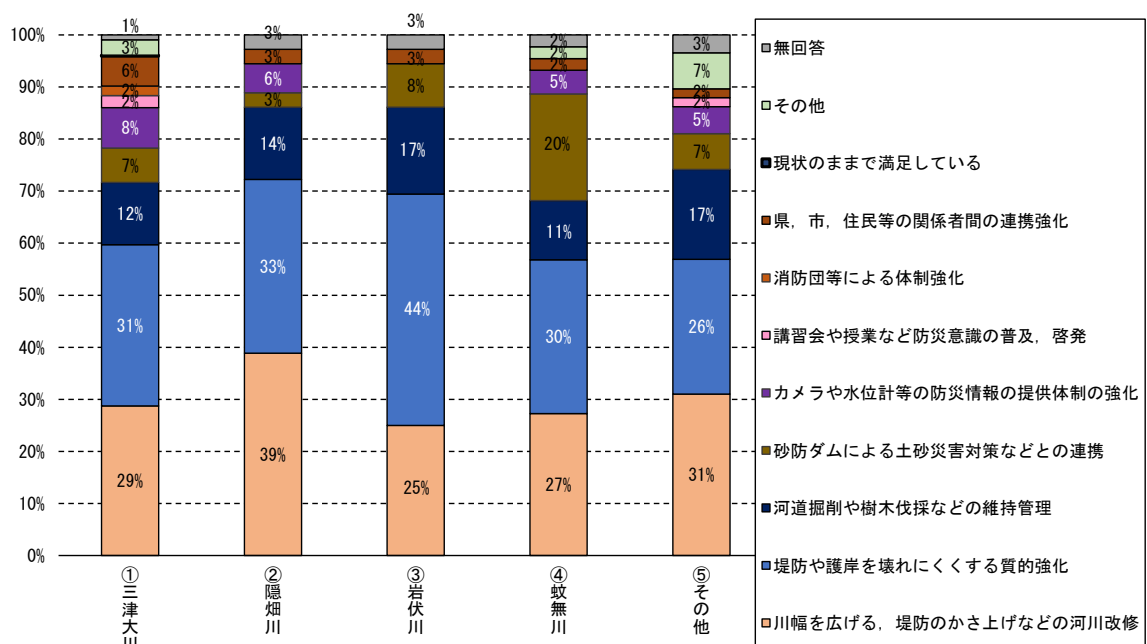
各河川においても「不十分」と回答のあった方が多く、洪水対策についての要望が強いと考えられる。



質問 1 3 - 2. 今後、「三津大川水系」の治水（洪水対策）について、特に必要なものは何かと思いますか

三津大川は、河川改修と質的強化による割合が同様であり、平成 30 年 7 月洪水及び令和 3 年 7 月洪水の被災要因である護岸崩壊や流下能力不足に対する要望が強い傾向と考えられる。

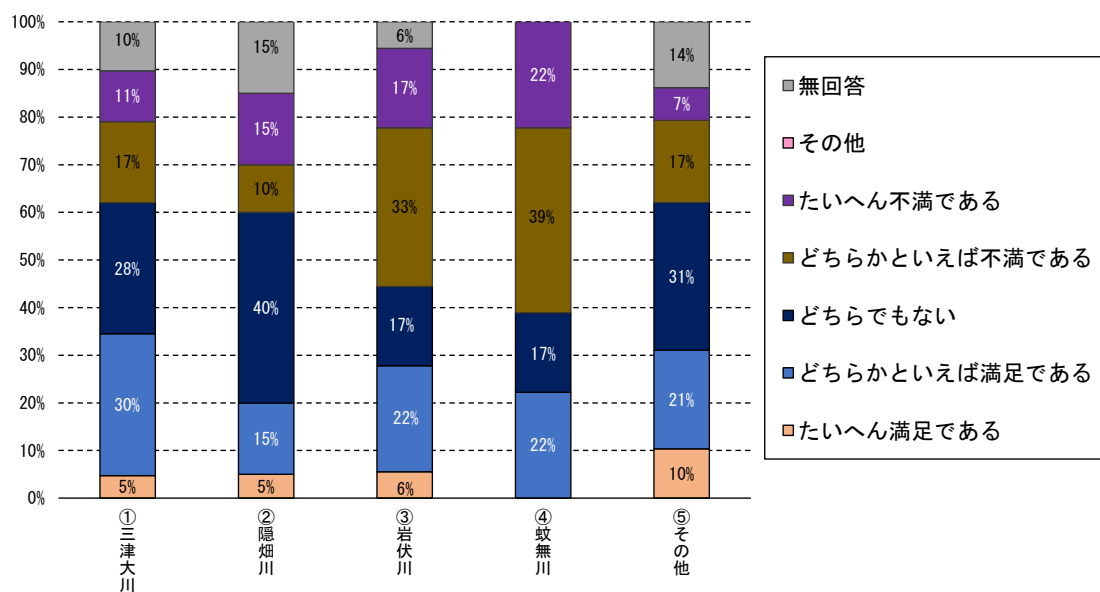
なお、各河川共に維持管理やソフト対策よりもハード整備による要望が強い傾向となっている。



質問 1 3 - 3. 別紙の「三津大川水系の河川整備（素案）の概要」に記載しております治水の内容について、どう思いますか

三津大川は、「たいへん満足」、「どちらかといえば満足である」と回答された割合が約 35%と最も多く、河川整備の対象が三津大川の抜本的な河川改修を記載していることに起因していると考えられる。

なお、岩伏川、蚊無川においては、「たいへん不満である」、「どちらかといえば不満である」と回答された方が多く、今後、関係機関と連携し、流域全体での治水安全度の向上が必要となると考えられる。

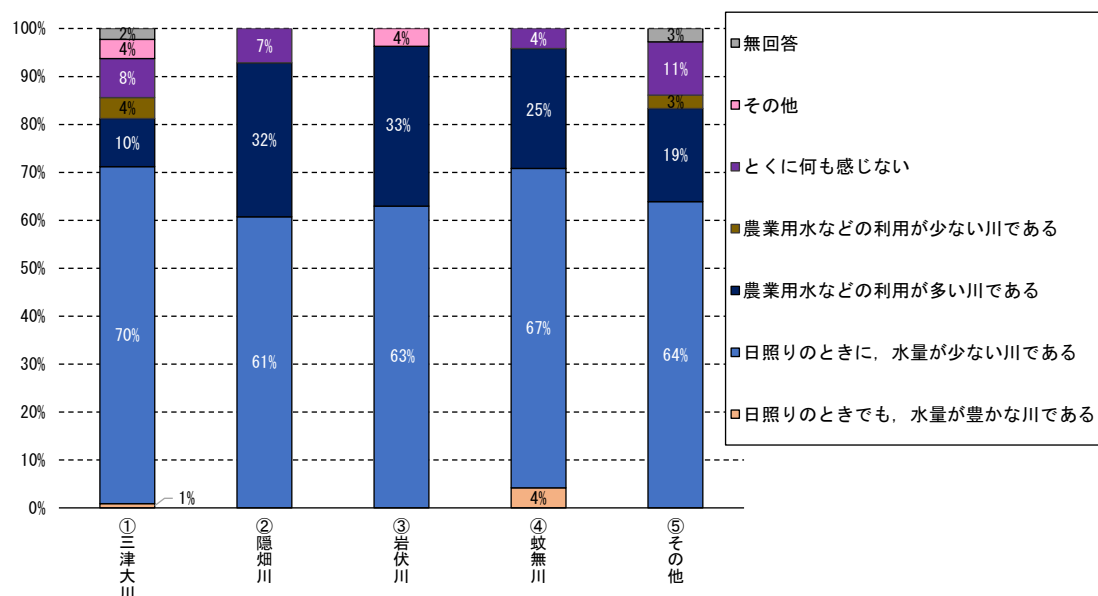


4.5 利水、河川環境について感じていること

質問 1 4 - 1. 現在、「三津大川」の水量・水利用についてどのように感じていますか

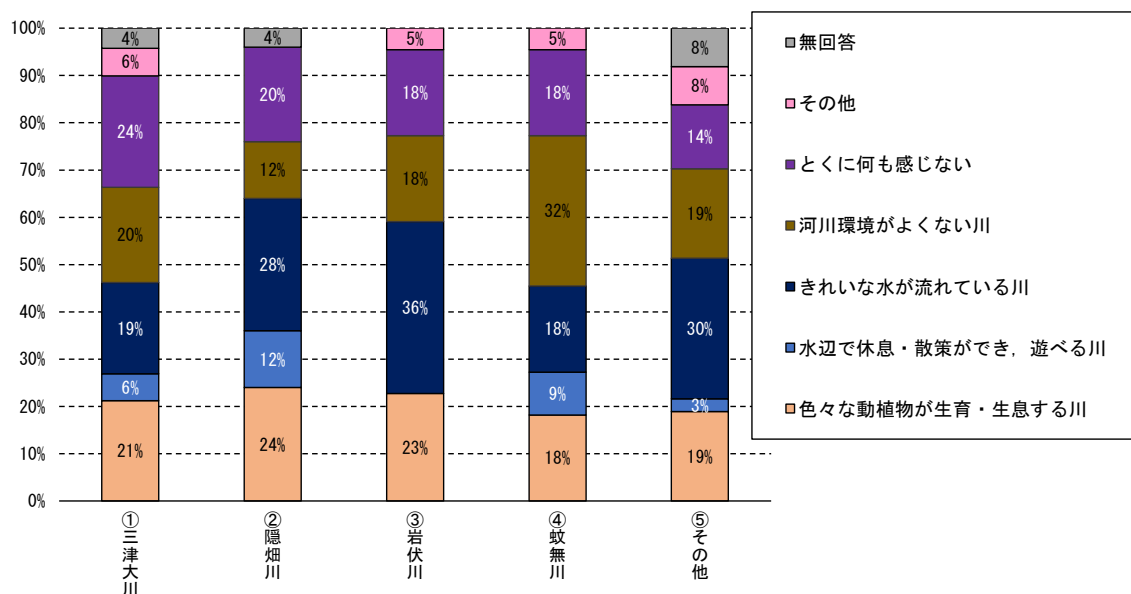
三津大川は、水量が少ないと回答された割合が約 71%と最も多いが、農業用水の利用について多いという意見が少ない傾向である。

他の河川は、農業用水が多いと感じている傾向が高い。



質問 1 4 - 2. 現在、「三津大川」の河川環境についてどのように感じていますか

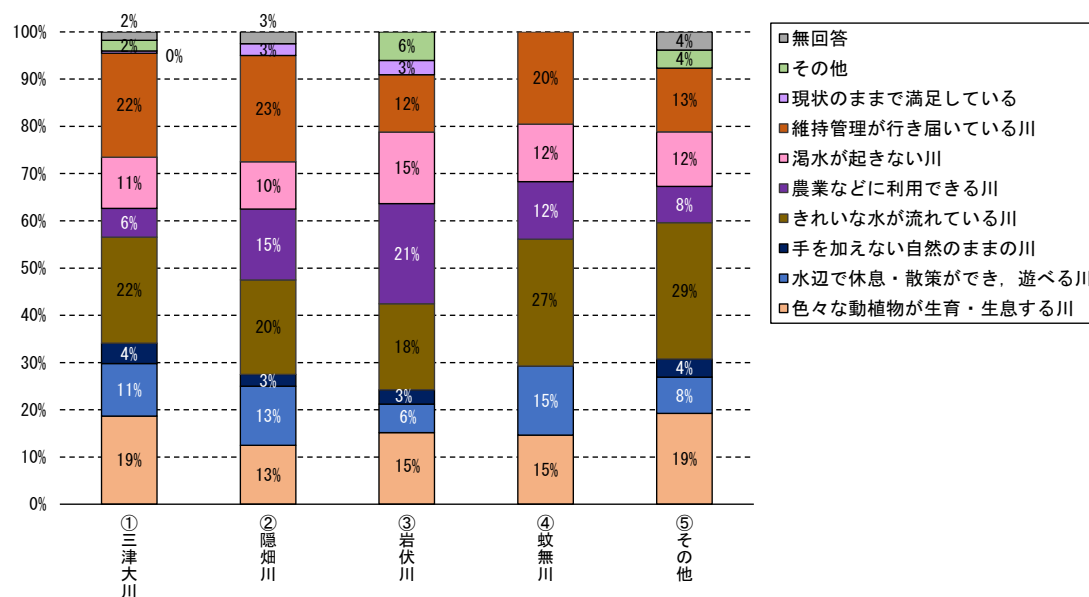
三津大川は、「色々な動植物が生育・生息する川」という意見が最も多く約 21%となっており、「河川環境がよくない川と感じている割合も約 20%であることから、自由意見も含めた確認を行った。



質問 1 4 - 3. 今後、「三津大川」の水利用、河川環境に対して特に何を期待しますか

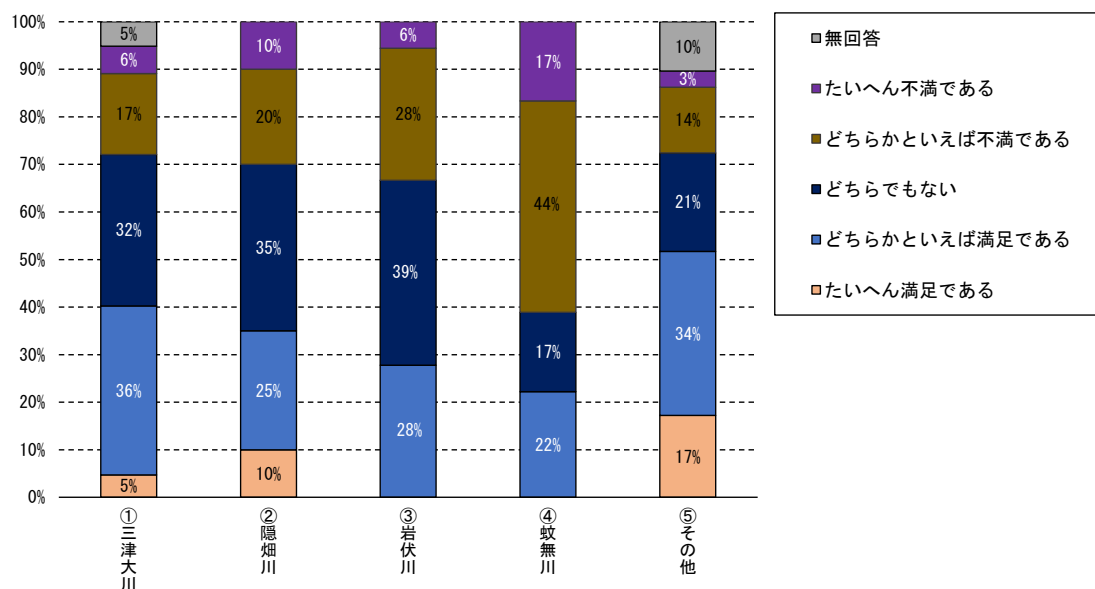
三津大川は、「維持管理が行き届いている川」、「きれいな水が流れている川」と回答された割合が約 21%と最も多く、農業用水の利用についての期待が少ない傾向である。

他の河川は、三津大川に比べ、農業用水が多いと感じている傾向が高い。



質問 1 4 - 4. 別紙の「三津大川水系の河川整備（素案）の概要」に記載しております，利水の内容並びに，河川環境の内容について，どう思いますか

三津大川は，「たいへん不満である」「どちらかといえば不満である」と回答された割合が約 23%と最も少なく，利水の内容並びに河川環境の内容については，満足の傾向が高いと考えられる。

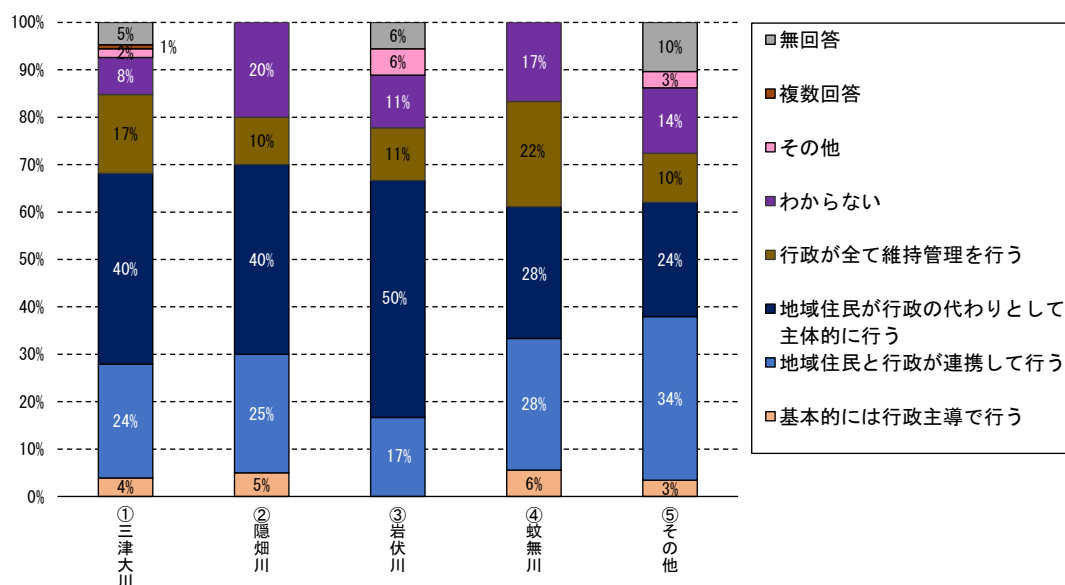


4.6 維持管理について感じていること

質問 15. 平常時の川との関わり方に関する考え方に、最も近いものを選んでください

各河川共に、行政が主体的に行うという回答が多い傾向であった。

三津大川は、基本的には行政主導で実施する「河川の維持管理」と回答されている方が、約 40% を占めている。なお、「行政がすべて維持管理を行う」と回答された方は、約 17%であり、「地域住民と行政が連携して維持管理を行う」（約 24%）と回答された方よりも少ない傾向であった。

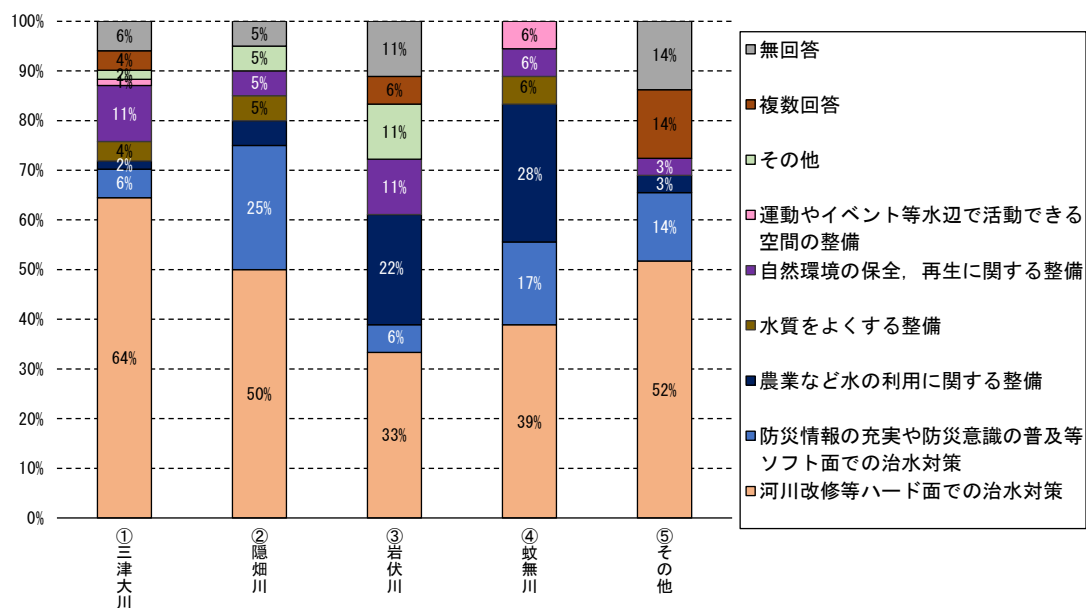


4.7 今後の三津大川水系の河川整備の優先度について

質問 16. 今後の三津大川の河川整備は、こういった点を優先的に実施してほしいと思いますか

三津大川の河川整備の優先度、「河川改修等ハード面での治水対策」と回答されている方が、約65%を占めており、各河川の中で最も多い傾向となった。

各河川共にハード整備面での治水対策の割合が大きい傾向を示しているが、岩伏川においては、農業用水などの水利用に関する整備に対し回答される割合が大きい傾向がある。



5. アンケート調査結果による河川整備計画への反映

アンケート結果による河川整備計画への反映としては、単純集計結果、自由意見集約結果、クロス集計結果(河川毎)より、単純・クロス集計結果の分析結果が、自由意見の集約結果と類似していると考えられる。つまり、自由意見を河川整備計画へ反映することにより、単純集計・クロス集計の分析結果を反映可能と考えられる。

以上より、アンケート調査結果による河川整備計画への反映に関しては、アンケートによる意見を踏まえ、河川整備計画(素案)に記載している内容との検証を行った。

また、各項目に対する回答を次頁に添付するものとした。

河川整備計画への反映(1/2)

情報伝達に関する意見	河川整備計画への反映(追記事項)
・ 後手に回る情報の発信をもっと素早く提出できないものでしょうか、全体の利益を考えると難しくなると思いますが、空き時間が多く次の段階に進めない様に感じます。 ・ ソフト対策、デジタル活用の伝達について、年寄りの多い地区にそぐわない方法ではないかと思う。 ・ 東広島市に合併したら、防災無線は撤去されたので不便である。呉市は積極的に防災無線を活用しているが、東広島市の取り組みは矛盾を感じる。	三津地区における現状を踏まえ、河川情報の提供について、以下のとおり、本文に追記しました。 【本文追記事項】 ●P22【4.2 河川情報の提供】 五つ目○追記 ○ 河川情報、避難情報の伝達方法について、三津地区の現状を踏まえ、より迅速に、かつ、的確な情報伝達となるよう、関係機関と連携します。

河川整備計画への反映(2/2)

維持管理に関する意見	河川整備計画への反映(追記事項)
・過去の河川の被害は上流より流木等が橋桁にひっかかり、それに多くのものがひっかかりその部分が水位が上がり被害があった。流木を極力無くすよう努める。又、上流より多くの土砂が流れて川底が盛り上がって来たので水位が高くなっている、川底の浅い部分の土砂を取り深くする事がベターである。 ・河川に草または小木などが生えて流れが悪くなるため定期的に自治会と行政で協力して整備されたい。 ・洪水災害後の処置は現在行われているが過去の浸水時、日常等の維持管理は全く見受けられなかった。 ・今迄の洪水の度に川底が埋まって天井川がひどくなってきているので、しっかり掘り下げることで生活地域の確保ができないのだろうか？ ・近年は草が繁って川床に土砂が蓄積している？と思う事が多く河川の管理を住民と共にすると良いのでは？と思っていました。三津の町の中心を流れる川です、皆で管理して安全できれいな川であって欲しいです。	三津地区における現状を踏まえ、地域や関係機関との連携について、以下のとおり、本文に追記しました。 【本文追記事項】 ●P22【4.3 地域や関係機関との連携】 二つ目○追記 ○ 三津大川の河道特性を踏まえ、日常や出水後に土砂堆積状況を確認できるよう、護岸に表示板を設置するなど、河川管理者、関係機関、地域住民が一体となって土砂堆積状況を把握し、河道の維持管理を図ります。

自由意見に対する回答【1／2】

大分類	中分類	小分類	人数	代表的な意見	本文への反映
治水	全般	安全安心な川づくり	34	・川側、山側問わず住民が安全安心して住める町づくりをお願いしたいです。 ・とにかく川の水が溢れないようになれば良いと思う。 ・平成30年7月洪水を経験している身としては、夏になると不安になる。お年寄りや小さな子供をかかえていると、安心してられないと思う。 ・どうしてもある三津大川、住んでいくためには付き合って生活していかなければならないその為洪水のない三津大川にしてもらいたい。一生住みたい三津です。いい所です。三津大川をすばらしい、美しい川にしてください。	「災害の発生の防止又は軽減に関しては、三津大川流域の特性を踏まえ、(中略)既往最大規模となった平成30年7月豪雨並びに令和3年7月洪水相当の流量について、河川からの溢水による家屋浸水被害を防止します。(後略)」 【本文記載内容】 ●P13 【2.2 洪水、高潮による災害の発生の防止又は軽減に関する事項】
		整備方法	59	・河岸が崩れた箇所を見ると、川幅が狭い所で発生していると思われます。流水を流せる断面積を確保する事が必要と思う。 ・災害復旧時に原状復帰ではなく、改修整備も行う。 ・道路、川沿いが壊れた所を完全に補修された所が又その個所が壊れた。(質的強化を願います) ・三津大川、宮崎川の川下は海が近いので大雨、大潮(満潮時)同時間になると大変です。お願い致します。 ・使用していない取水堰の天端を低くする等.の対応を行ったらどうか。 ・2箇所の改修だけでなくもっと全体的に川幅を広げてほしい。とにかく水があふれることがないようにしてほしい	
		流域治水	6	・ハード整備だけでは今後予想される洪水に対応できないと考えるため洪水の原因と思える山の整備、田畑の復活整備が必要である。また実現は不可能と考えるが、温暖化防止に行政、住民の意識改革と対策が必要である。少しづつでも実行すべきである。	
	河道	高潮対策	3	・海からの潮(満潮)時(地震)も心配である。	「広島県、東広島市が連携し、必要に応じて総合的な治水対策を実施し、内水被害や外水被害の軽減を図ります。」 「施設の能力には限界があり施設では守りきれない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会再構築ビジョン」を踏まえ、(中略)関係機関が一体となって、減災に向けた取組方針を定めています。」 【本文記載内容】 ●P22 【4.3.1 治水に関する事項 / 一つ目の○】 ●P23 【4.3.3 水防災意識社会再構築ビジョンを踏まえた取組】
	ソフト対策	情報提供	8	・後手に回る情報の発信をもっと素早く提出できないものでしょうか、全体の利益を考えると難しくなると思いますが、空き時間が多くの段階に進めない様に感じます。 ・ソフト対策、デジタル活用の伝達について、年寄りの多い地区にそぐわない方法ではないかと思う。 ・東広島市に合併したら、防災無線は撤去されたので不便である。呉市は積極的に防災無線を活用しているが、東広島市の取り組みは矛盾を感じる。	「災害の発生の防止又は軽減に関しては、既往最大規模となった平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害が生じないよう、野呂川ダムの有効活用や河川改修を行います。(中略)想定される規模を超える洪水や高潮、津波が発生した場合においても、その被害を最小限に抑えるため、(中略)総合的な被害軽減対策を進めます。」 【本文記載内容】 ●P13 【2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】
		避難行動	1	・呉信用金庫安芸津支店前の交差点から県道東広島(西条)方面約200m大雨時、道路や歩道に水が流れ歩いて避難所(学習センター)へ行けない。	三津地区における現状を踏まえ、河川情報の提供について、以下のとおり、本文に追記しました。 【本文追記事項】 ●P22 【4.2 河川情報の提供に関する事項】 五つ目○ ○ 河川情報、避難情報の伝達方法について、三津地区の現状を踏まえ、より迅速に、かつ、的確な情報伝達となるよう、関係機関と連携します。
	利水	全般	2	・三津大川は長さも短く水量も少ない、大手企業や新築家屋が増加し、少し前から上水道利用により夏場には三津小学校から下(南側)には水が流れなくなり川に生息する魚やホタル等水辺の動物も非常に少なくなっています。費用の掛かる事ですが昭和池や他の川の池、ダム建設や拡大をされ、昔の様に潤いのある環境にしてもらいたい。	「(前略)「広島県管理河川大規模氾濫時の減災対策協議会(西部建設事務所管内【東ブロック】)」において、「洪水による『災害死ゼロ』の実現」を目指し、関係機関が一体となって、減災に向けた取組方針を定めています。今後は、引き続き継続的なフォローアップを行い、必要に応じて取組方針を見直します。」 【本文記載内容】 ●P23 【4.3.3 水防災意識社会再構築ビジョンを踏まえた取組】
河川環境	全般	整備と保全	4	・昔は鯉、鮎などが生息していたので、環境は維持してもらえば良いと思いますが、水害を目にした者としては、安全に整備されることを望みます。その後、生物が戻ってきてくれたらうれしいです。	「河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水との調和を図りながら、貴重な動植物の生息・生育場となっている水環境の保全、(中略)関係機関や地元住民と連携しながら、河川の水質、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・改善に努めます。」 【本文記載内容】 ●P13 【2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】
	河川利用	親水対策	10	・河川環境は昔の様に子供が川で遊べる環境づくりをして欲しい。 ・祇園町児童公園を治水、利水活用した公園にしてほしい。	
	動植物	保全対策	16	・シラウオがとれる環境は維持してほしい。 ・護岸を全て環境ブロックにしたのならば、川底は天然の石のままにしておくべき。せっかく未だ天然の鮎や鰻が上がってくるのにもったいない。完全に平らにしてしまうと、書いてあるような魚の住み処もなくなる。 ・過去の河川の被害は上流より流木等が橋桁にひっかかり、それに多くのものがひっかかりその部分が水位が上がリ被害があった。流木を極力無くすよう努める。又、上流より多くの土砂が流れて川底が盛り上がり来たので水位が高くなっている。川底の浅い部分の土砂を取り深くする事がベターである。 ・河川に草または小木などが生えて流れが悪くなるため定期的に自治会と行政で協力して整備されたい。 ・洪水災害後の処置は現在行われているが過去の浸水時、日常等の維持管理は全く見受けられなかった。 ・今迄の洪水の度に川底が埋まって天井川がひどくなってきたので、しっかり掘り下げることで生活地域の確保ができないのだろうか？ ・近年は草が繁って川床に土砂が蓄積している？と思う事が多く河川の管理を住民と共にすると良いのでは？と思っていました。三津の町の中心を流れる川です、皆で管理して安全できれいな川であって欲しいです。	
維持管理	治水	河床堆積・樹木	41	・過去の河川の被害は上流より流木等が橋桁にひっかかり、それに多くのものがひっかかりその部分が水位が上がリ被害があった。流木を極力無くすよう努める。又、上流より多くの土砂が流れて川底が盛り上がり来たので水位が高くなっている。川底の浅い部分の土砂を取り深くする事がベターである。 ・河川に草または小木などが生えて流れが悪くなるため定期的に自治会と行政で協力して整備されたい。 ・洪水災害後の処置は現在行われているが過去の浸水時、日常等の維持管理は全く見受けられなかった。 ・今迄の洪水の度に川底が埋まって天井川がひどくなってきたので、しっかり掘り下げることで生活地域の確保ができないのだろうか？ ・近年は草が繁って川床に土砂が蓄積している？と思う事が多く河川の管理を住民と共にすると良いのでは？と思っていました。三津の町の中心を流れる川です、皆で管理して安全できれいな川であって欲しいです。	三津地区における現状を踏まえ、地域や関係機関との連携について、以下のとおり、本文に追記しました。 【本文追記事項】 ●P22【4.3 地域や関係機関との連携】 二つ目○追記 ○ 三津大川の河道特性を踏まえ、日常や出水後に土砂堆積状況を確認できるよう、護岸に表示板を設置するなど、河川管理者、関係機関、地域住民が一体となって土砂堆積状況を把握し、河道の維持管理を図ります。
		護岸	3	・良く見ておしてほしい。いつも歩いて見て恐ろしいです。土だけのがけに堤防をつけてほしい。川の下だけコンクリートして上方はそのままです。	「(前略)河川巡視や出水期前・出水後など適切な時期に点検を実施し、状況把握を行い、その点検結果を蓄積するとともに、必要な対策を実施することで、「河川管理施設」の機能の維持に努めます。(後略)」 護岸、堤防等の河川管理施設については、法崩れ、亀裂等の異常について早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。 【本文記載内容】 ●P21 【3.2.1 河川の維持の目的】 【3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所/ (2)護岸、堤防等の維持】
	河川環境	ゴミ対策	9	・今まではボランティアで水路の流木、砂、石ころ、ゴミ等の撤去を実施していましたが高齢者ばかりの住民なのでいつも苦慮しております。 ・地域の水路の清掃が少なくなっています。そのため汚泥が溜まったり破損が進んだりしています。地域でのボランティア活動を補助する取り組みを自治体から発信してもらいたい。(個人では地域の人を動かすづらい)	「親しめる川づくりを進めるため、河川に関する広報活動等により地域住民に河川への関心を高めるよう努めます。また、草刈りや清掃活動などの河川愛護活動の支援も行います。」 ●P26 【3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所 (4)植生の維持、(6)ゴミ等対策】

自由意見に対する回答【2／2】

大分類	中分類	小分類	人数	代表的な意見	本文への反映
その他	全般	災害復旧	69	・とにかく駅に繋がる橋を早急に修繕開通してほしい。メイン道路なのにこんなに時間がかかるのはどうしてですか、もう半年過ぎました。不便でなりません。早くしてください。仮復旧でも良いです。 ・新興橋が通行止めのため、生活が不便。早期復旧を求めます。 ・立ち退きなどに時間がかかるので、川沿いの道路の嵩上げや溢れた水を止める堤防のようなものを作って欲しいです。早く橋が通れないと益々駅前が寂れてしまいます。よろしくお願いします。 ・現在崩れている部分だけでも(仮補修、土嚢だけでも)早くお願いしたいです。次に大きい洪水が来たらと思うと不安です。毎年梅雨が来ると不安な日々です。どうか、出来るだけ早くお願いいたします。よろしくお願いします。 ・色々な問題もあろうかと思いますが早く整備して欲しいです。交通の便など…不便を感じています ・橋が1ヶ所しかなく歩くのに不便です。人が歩く所を作ってください。病院へ行くのに遠回りするのにどうしても早く作って下さい。	現在も、早急な復旧がなされるよう、取組を実施していますが、皆様にはご迷惑をおかけしております。 災害復旧については、災害復旧助成事業として整備を行い、令和6年度の完成を目指しています。 仮橋(人道橋)については、3月中の完成を目途に進めております。 貴重なご意見は、関係機関と共有して参ります。 引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
		災害要因	6	・川底に段差のある所に、毎回被害が出ている。なぜなのか研究すべし(底の水と上の水がぶつかり、うねりが酷くなり被害が出る)検証すべし。 ・用水路は、工事前用水路を壊してそのまま護岸工事をした。それで水の流れが変わり、川底が掘れて護岸が壊れたような気がする。今後地元住民の意見も聞きつつ工事を進めて欲しい	平成30年7月洪水は、河道内への土砂混入などの影響により発生しております。 令和3年7月洪水においても、流下能力不足箇所からの溢水をはじめ、河川内を流下する礫等により、護岸崩壊が生じているものと推測されます。三津大川は、河床勾配が急であり、洗堀等による河床の変化も生じる可能性が高いため、本整備では、被災前の河床高を基本とした整備を実施する方向としております。
		行政への意見	8	・災害が発生した時点で、地元住民との話の場が必要だと思う。平成30年の災害についても行政から何の説明もないと苦情・不満を持っている人が多い。 ・住民への説明を何度でも詳細に行う。	貴重なご意見ありがとうございます。 なお、工事の際には、段階的に地元説明会等も実施していきますので、よろしくお願いいたします。
		アンケート	3	・このアンケートがどう生かされるか？	河川整備計画に関する内容、河川改修、ならびに維持管理に反映していきます。
		まちづくり	3	・ガードレール等の設置により誤転落防止にもしっかり取り組んでほしい ・河川の整備はもちろんですが、被害が発生しそうなところには新しく家屋の建設はしないことも(規制することも)大事だと思います。	「適正な河川管理を行うためには、流域の成り立ちやその役割・特性を考慮し、治水、河川利用及び河川環境などの情報について、地域や関係機関と連携し流域一体で取り組むことが重要であると考えます。」 【本文記載内容】 ●P22【4 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項】
		農業利用	1	・河川整備の時も耕作意欲の無い田畑は無駄だと思う。耕作確約書(5年)を作成して田畑の修復をして欲しい！	貴重なご意見は、関係部局と共有して参ります。
		その他	1	・家にほとんどいないので良く分かりません。	—
	治水	小河川	9	・三津大川迄の支流の川がすぐ溢れる国道32号線、呉信用金庫あたりがすぐ浸かる。国道の下に埋めているパイプが小さい。三津大川の河川整備に直接関する事ではないのですが、三津大川の水量を少しでも抑える為に県道沿いの既存の小川の整備を行って欲しい	貴重なご意見は、関係機関と共有します。
		内水対策	7	・家屋の浸水を防ぐため護岸の嵩上げを実施しても、三津大川から枝流れしている川原に水が逆流し、(下流)海から満潮時、津波、台風、満月で、地理的に低い安芸津駅前に水が流れこみ、平成30年7月は床上、令和3年7月は床下浸水でたくさんのヘドロを処理しました。何とかありませんか？ ・三津大川と関係ないですが、沖の殿用水路から県道にあふれ呉信に向かって流れ込むのは改善できませんか。何度も見る光景です。	「広島県、東広島市が連携し、必要に応じて総合的な治水対策を実施し、内水被害や外水被害の軽減を図ります。」 【本文記載内容】 ●P22【4.3.1 治水に関する事項 / 一つ目の○】
		治山・砂防	4	・上流の土石流出を最小限に出来たら良いと思う、倒木、土砂の堆積の整備、川幅を広げてても各河川の上流の堆積の流出により被害の発生が起これと思われる。	貴重なご意見は、関係部局と共有して参ります。 【本文記載内容】 ●P24【4.3.4 その他/ 一つ目の○】
		利水	用水路	1	・水田作りに適した河川整備も考えて欲しい。立花は水の取り込みが現在難しいので
維持管理	小河川	1	・東広島市管理の水路(三津ポンプ場)に対する土砂撤去を行ってほしい。		
維持管理	河床堆積・樹木	1	・護岸整備が遅く未だ不安な日々が続く、維持管理が粗雑である。対応も悪く連絡したにも関わらずその場所にも来てくれない。災害時旗を立てて行ったが、改修も聴き取りもない、本当にこの案が実行されるかさえも疑問、不安が残る		
合計			310		